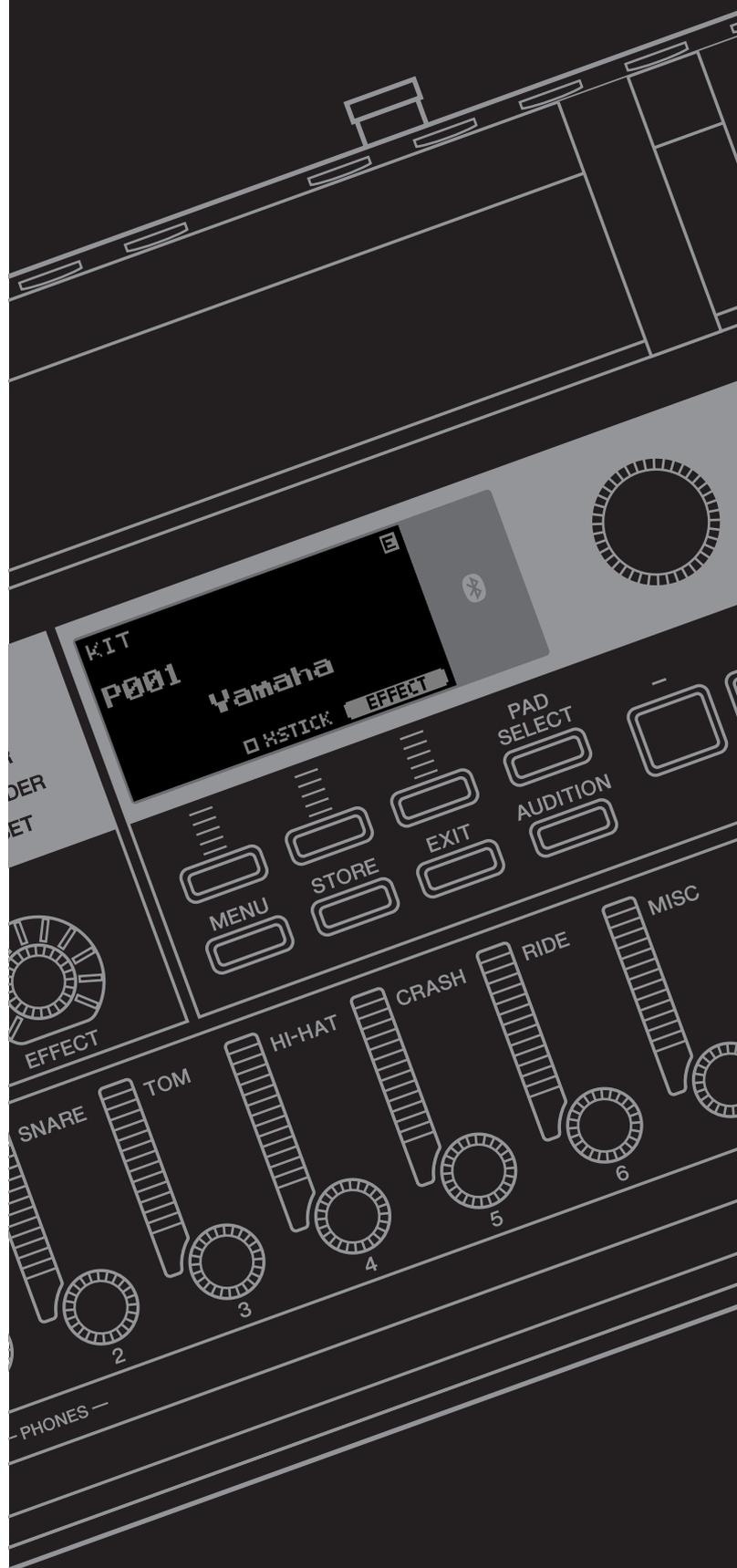


DTX drums

ドラムトリガーモジュール

DTX-PROX

取扱説明書



DTX-PROXの特長

8ページ

目次

9ページ

仕様

60ページ

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

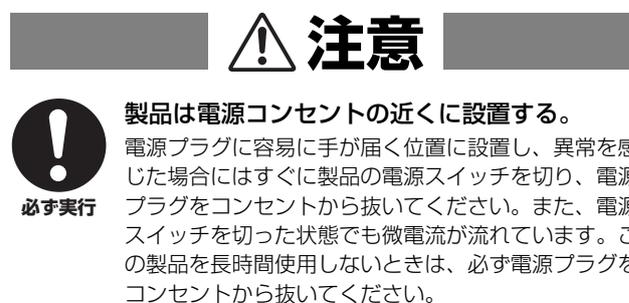
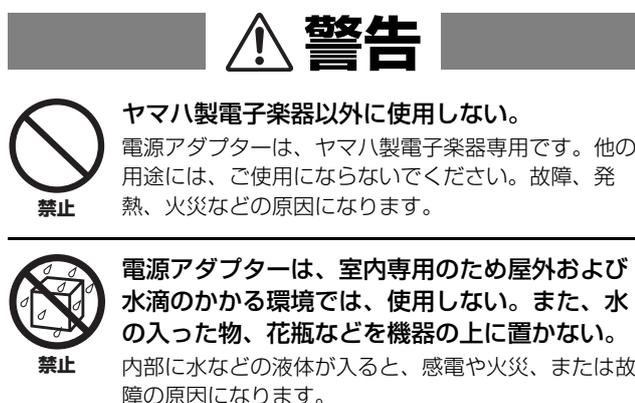


■ 「警告」「注意」「注記」について

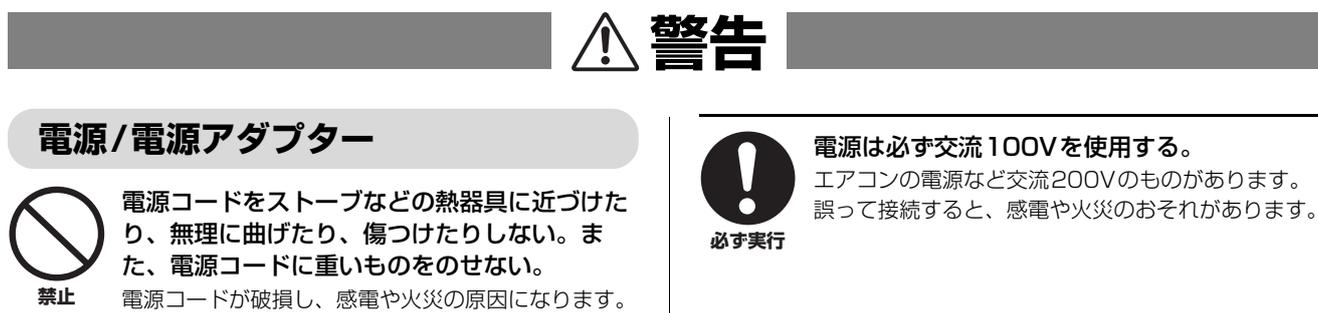
誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。



電源アダプターについて



本機について





電源アダプターは、必ず指定のもの(60ページ)を使用する。

必ず実行

異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

必ず実行

感電やショートのおそれがあります。

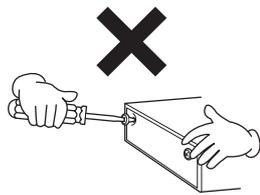
分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



禁止

本機の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気が多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本機の上にもろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

医療用電気機器への影響



禁止

医療機器の近くなど電波の使用が制限された区域で使用しない。

心臓ペースメーカーや除細動器の装着部分から15cm以内で使用しない。

本体が発する電波により、動作に影響を与えるおそれがあります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合
- ・製品に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。

⚠️ 注意

電源/電源アダプター



禁止

たこ足配線をしない。

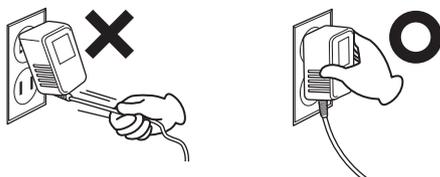
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。

組み立て



必ず実行

本書の組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立てる。また、定期的にボルトを締め直す。

楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。

本機が転倒して故障したり、お客様やほかの方がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

本機を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。

コードをいためたり、お客様やほかの方が転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



必ず実行

ラックなどに取り付ける場合は、付属のモジュールホルダーを使用する。また、必ず付属のモジュールホルダー用蝶ボルトを使用する。

本機が転倒し破損したり、内部の部品を傷つけたりする原因になります。



必ず実行

この製品を設置される際、接続ケーブルなどの引き回しにはじゅうぶん注意する。

足を掛けて転倒するなど、けがの原因となります。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴覚障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴覚障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

本機のすき間に手や指を入れない。

お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

パネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

本機の上にとったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本機が破損したり、お客様やほかの方がけがをしたりする原因になります。



禁止

小さな部品は、乳幼児の手の届くところに置かない。

お子様が誤って飲み込むおそれがあります。



禁止

大きな音量で長時間使用しない。

聴覚障害の原因になります。特にヘッドホンを使用する場合はご注意ください。万一、聴力低下や耳障りを感じた場合は、専門の医師にご相談ください。



- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを切った状態(画面表示が消えている)でも微電流が流れています。[⏻](スタンバイ/オン)スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

注記(ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。本機またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。
- スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスのアプリと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためスマートデバイスの機内モードをオンにしてからWi-FiまたはBluetoothをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
- 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本機のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- 本機上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本機のパネルが変色/変質する原因になります。

■ 製品のお手入れに関する注意

- お手入れの際は、乾いた柔らかい布、または水を含ませた柔らかい布を固くしぼってご使用ください。ベンジンやシンナー、アルコール、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。

■ データの保存に関する注意

- この楽器のシステム設定(リファレンスマニュアル(PDF)参照)は自動的に保存され、電源を切っても消えません。ただし保存されたデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器に保存してください(リファレンスマニュアル(PDF)参照)。USBフラッシュメモリーを使う前には、必ず21ページをお読みください。
- 編集したキットやクリックなどは、保存前に電源を切ると消えてしまいます。オートパワーオフ機能(19ページ)により電源が切れた場合も同様です。保存しておきたいデータは、本機またはUSBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器に保存してください(リファレンスマニュアル(PDF)参照)。ただし、本機に保存したデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器に保存してください(リファレンスマニュアル(PDF)参照)。USBフラッシュメモリーを使う前には、必ず21ページをお読みください。
- 保存したUSBフラッシュメモリーの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器にバックアップとして保存されることをおすすめします。

Bluetoothについて

Bluetoothとは、2.4 GHz帯の電波を利用して、対応する機器と無線で通信を行うことができる技術です。

■ Bluetooth 通信の取り扱いについて

- Bluetooth 対応機器が使用する2.4 GHz帯は、さまざまな機器が共有する周波数帯です。Bluetooth 対応機器は、同じ周波数帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を採用していますが、他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断されることがあります。
- 通信機器間の距離や障害物、電波状況、機器の種類により、通信速度や通信距離は異なります。
- 本機はすべてのBluetooth 機能対応機器とのワイヤレス接続を保証するものではありません。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- 本製品は、日本国内でのみ使用できます。
- 本製品は、日本電波法に基づく認証を受けた無線機器を内蔵しております。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は不要です。ただし、本製品に以下を行うと法律で罰せられることがあります。
 - 本製品を分解/改造する
 - 本体底面の銘板をはがしたり、消したりする

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、または機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。

お知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いいたします。
- この製品に内蔵または同梱されたコンテンツは、ヤマハ(株)が著作権を有する、またはヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物です。製品に内蔵または同梱されたコンテンツそのものを取り出し、もしくは酷似した形態で記録/録音して配布することについては、著作権法等に基づき、許されていません。
 - ※ 上記コンテンツとは、コンピュータープログラム、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。
 - ※ 上記コンテンツを使用して音楽制作や演奏を行い、それらを録音や配布することについては、ヤマハ(株)の許諾は必要ありません。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Apple, Mac, Macintosh, iPhone, iPad, iPod touchは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- AndroidはGoogle LLCの商標です。
- Bluetooth® およびロゴはBluetooth SIGの登録商標であり、ヤマハ株式会社はライセンスに基づき使用しています。



- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- [](かざかっこ)は、パネル上にあるボタン類や端子を示します。

■ バージョンアップについて

ヤマハ製品では、機能や操作性向上のために、不定期に本機のファームウェアをアップデートすることがあります。ドラム製品の最新バージョンについては、以下のウェブサイトを確認、ダウンロードできます。本機につきましても、ファームウェアを最新バージョンにアップデートされることを推奨します。

<https://download.yamaha.com/jp/>

なおこの取扱説明書では、本書制作時のバージョンで説明しております。バージョンの確認方法やその機能/操作についても、上記ウェブサイトでご確認いただけますようお願いいたします。

■ 電子ドラムパッド(パッド)について

この取扱説明書では、本機に接続できるパッドの品番を掲載していますが、これらは本書制作時点での最新品番です。その後発売された最新品番については、下記のウェブサイトでご確認いただけますよう、お願いいたします。

<https://download.yamaha.com/jp/>

※ ウェブサイトのURLは予告無く変更することがあります。

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号

(bottom_ja_02)

はじめに

このたびは、ヤマハDTX-PROXをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
DTX-PROXは、電子ドラムキットやパッドで音を鳴らすためのドラムトリガーモジュールです。

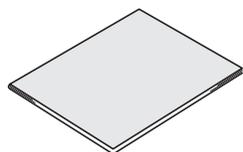
ご家庭、スタジオやライブなどで演奏にお使いいただけます。

本製品に搭載された機能を十分に活かし、演奏をお楽しみいただくため、本書をよくお読みになってからご使用ください。

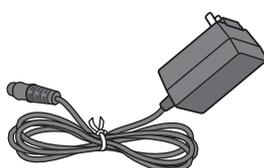
また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管していただきますようお願いいたします。

付属品 (お確かめください)

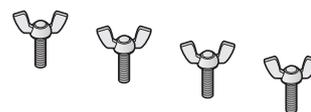
取扱説明書 (本書)



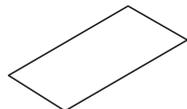
電源アダプター



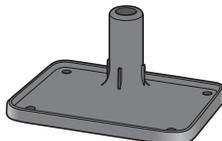
モジュールホルダー用蝶ボルト
(4個)



保証書



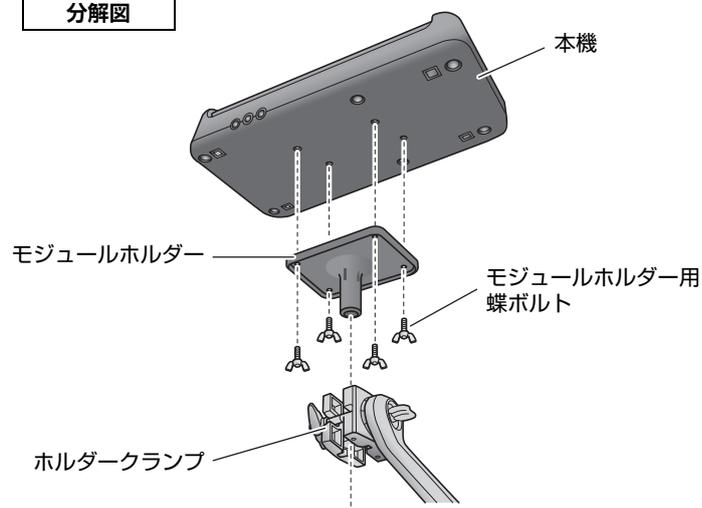
モジュールホルダー



Cubase AI ダウンロード
インフォメーション

モジュールホルダーの取り付けかた

分解図



NOTE

モジュールホルダーは、標準のドラムハードウェアの径(22.2mm または 7/8インチ)に対応しています。

取扱説明書について

本機には、以下の説明書が用意されています。これらの説明書は、本機の利用者を対象に作られています。

冊子マニュアル



取扱説明書(本書)

準備編 本機の取り付けかたや音を出すまでの準備について説明しています。

基本編 本機の基本的な使いかたについて説明しています。

応用編 本機をより詳細に使いこなす方法について説明しています。

資料 困ったときの解決方法をはじめ、各種資料を掲載しています。

電子マニュアル(PDF形式)



リファレンスマニュアル

[MENU](メニュー)ボタンを押すと表示される機能や、その他の詳細設定について説明しています。



データリスト

本機に搭載されたキット名やエフェクト名などの一覧とMIDIに関する資料を掲載しています。



スマートデバイス接続マニュアル iOS用(iPhone/iPad接続マニュアル) スマートデバイス接続マニュアル Android™用

本機をスマートフォンやタブレット端末と接続する方法を説明しています。

電子マニュアルは、ヤマハ ダウンロードのウェブサイトからご覧いただけます。インターネットに接続して以下のウェブサイトを開き、「モデル名から検索」テキストボックスにモデル名「DTX-PROX」などを入力して「検索」をクリックします。

ヤマハ ダウンロード <https://download.yamaha.com/jp/>

DTX-PROXの特長

●直感的な操作で、あなたの理想のドラムサウンドが鳴らせる

- ✓ Real World Studiosをはじめとした著名スタジオにて、トップスタジオドラマーの演奏による、本物のアンビエンスを含めたナチュラルなドラム音を収録
- ✓ 新たに搭載されたKIT MODIFIERで、ドラムサウンドメイクの肝となるアンビエンス/コンプ/エフェクトの直感的な操作を実現 (→33ページ)
- ✓ 高品質なドラムサウンドを実現する、高性能ヘッドホンアンプを搭載
- ✓ アコースティックドラムさながらの表現力を実現する高精細ダイナミクス、高性能エフェクト、スネア/ライドポジションセンシング^(*)1)、高速発音、256音同時発音の高性能音源を搭載
- ✓ ドラムサウンドメイクだけでなく、ライブシーンでの外部機器のコントロールまで素早く直感的に操作できるLEDロータリーフェーダーを搭載

●ライブシーンに活用できる

- ✓ ライブセット機能でキット、テンポ、オーディオファイルなどをお好みの順番で保存。演奏時にワンタッチでの呼び出しが可能
- ✓ 8系統のINDIVIDUAL OUTPUT端子と自由度の高いルーティング機能により、スネア、キックなど各楽器音を個別にミキサーへ送信可能
- ✓ PHONESとAUX INは、標準フォーンタイプとミニタイプの2種類の端子を搭載。変換コネクタやミキサーなしで外部機器と接続可能

●演奏テクニックを高めるための効果的な練習ができる

- ✓ 高機能プログラマブルメトロノームを搭載。クリックタイミングごとの音量や音色の調節などのカスタマイズが可能 (→42ページ)
- ✓ レコーダー機能を搭載し、本機はもちろん、USBメモリーを使った録音/オーディオ再生にも対応 (→46ページ)

●音楽制作、動画作成、動画のシェアまで、あなたの活動の幅が大きく広がる

- ✓ iOS、AndroidアプリのRec' n' Shareに対応。スマートデバイスにUSBデジタル接続することで好きな曲に合わせての練習はもちろん、高音質な演奏の録音、再生が可能。さらに動画撮影やSNSでのシェアなどに活用できる^(*)2) (→23ページ)
- ✓ Bluetoothオーディオ接続^(*)3)による音楽再生に対応
- ✓ 付属のSteinberg Cubase AIの利用で、本格的な音楽制作にも対応 (→54ページ)

*1 対応パッドについてはパッドモジュール対応表を参照

*2 USB クラスコンプライアントに対応。スマートデバイスの接続には専用ケーブルが必要

*3 詳しくは各部の名称とはたらき(10ページ)

目次

安全上のご注意	2
はじめに	6
付属品 (お確かめください)	6
取扱説明書について	7
冊子マニュアル	7
電子マニュアル(PDF形式)	7
DTX-PROXの特長	8
各部の名称とはたらき	10
トップパネル	10
フロントパネル	12
リアパネル	13
準備編	14
演奏するための準備	14
設置	14
電源を入れる、切る	17
全体の設定を変える	19
USBフラッシュメモリの取り扱い	21
スマートデバイスを活用する	23
Bluetooth対応機器のオーディオデータを本機で鳴らす (Bluetoothオーディオ機能)	24
基本編	26
キットのしくみ	26
パッドの叩きかた	27
DTX-PROXの基本操作	32
ドラムセットの音を変える(自分の好きなドラムセットを組む)	34
クリック(メトロノーム)を使う	42
自分のクリック(メトロノーム)設定を作る	43
トリガー設定を変える	45
自分の演奏を録音する	46
PAに接続する	49
ライブセットを活用する	50
応用編	51
別売品や外部機器を接続する	51
資料	55
メッセージ一覧	55
困ったときは	57
仕様	60
索引	61
保証とアフターサービス	62

各部の名称とはたらき

トップパネル

液晶ディスプレイ (表示画面)

ファンクション1~3ボタン ([F1]、[F2]、[F3])
各画面下部に表示された機能を選ぶときに使います。

注記：画面の「E」マークについて

キットやクリックなどの設定を変更すると、画面の右上に「E」と表示されます。これは設定の編集後、保存(ストア)されていないことを示しています。ストアするとマーク表示は消えます(40ページ)。ストアしないでキットやクリックを切り替えると、変更した設定は失われます。

キット画面の見かた



クロススティック設定(28ページ)
パッドの種類によっては非表示

エフェクト設定
画面(33ページ)

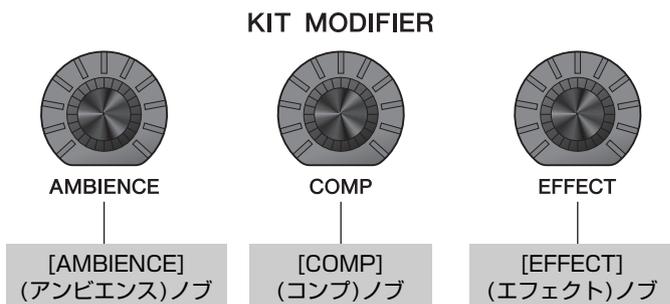
モードセレクトノブ

モード(キット、クリック、トリガー、レコーダー、ライブセット)を切り替えます。各モードの画面が表示されます。



KIT MODIFIER(キットモディファイア)ノブ

アンビエンス(残響感、空間の広がりかた)、コンプ(音のツブの整えかた)、エフェクト(エフェクトのかかり具合)の量を調節します。

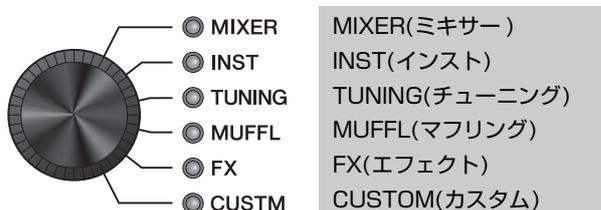


⇒ キットのしくみ(26ページ)

⇒ 音色効果を調節(モディファイ)する(33ページ)

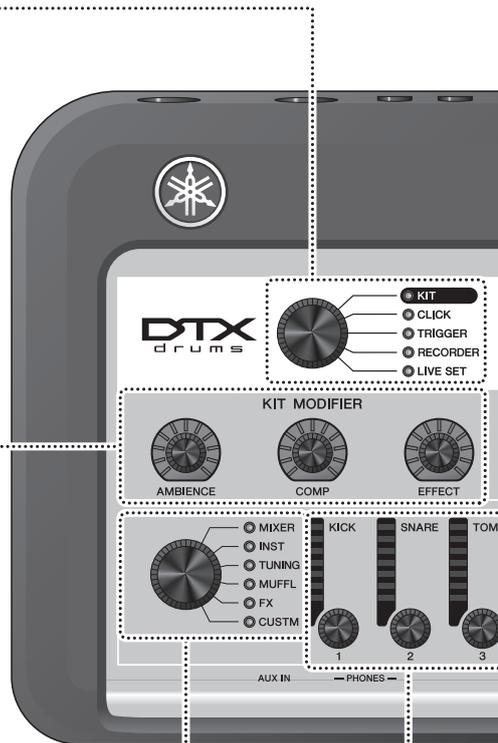
フェーダーセレクトノブ

LEDロータリーフェーダーに割り当てる機能を切り替えます。(34ページ)



LEDロータリーフェーダー

フェーダーセレクトノブで割り当てた機能を変更します。値の変化はインジケータに表示されます。



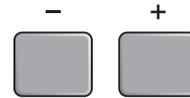


Bluetooth フィギュアマーク
(24ページ)

[-][+]ノブ



[-]ボタン [+]ボタン



値を減らしたり、増やしたりします。

ノブは値をまとめて変えたいとき、ボタンは値を1つずつ変えたいときに使うと便利です。本書では両方をまとめて「[-][+]」と記載します。ノブとボタンのどちらかを使ってください。

PAD
SELECT



[PAD SELECT](パッドセレクト)ボタン

トリガー入力切り替え画面またはトリガー入力ソース切り替え画面が表示されます。詳しくはリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。

NOTE

LEDロータリーフェーダーで設定変更中にパッドを切り替えたいときにも、このボタンを押します。

[](スタンバイ/オン)スイッチ(17ページ)

電源のスタンバイ(オフ)とオンを切り替えます。

クリックテンポ表示

[TEMPO](テンポ)ノブ(42ページ)

テンポを調節します。



CLICK

[CLICK](クリック)ボタン(42ページ)

クリックをスタートまたはストップします。クリックのテンポに合わせてランプが点滅します。

AUDITION **[AUDITION](オーディション)ボタン**



パッドの代わりにこのボタンを押すことでドラム音が鳴ります。現在選択しているトリガー入力ソース(リファレンスマニュアル(PDF))の音が鳴ります。電源起動時では、[] SNARE]端子に接続されたスネアドラムパッドのヘッド部に割り当てられたボイスが鳴ります。

画面切り替えボタン

MENU



[MENU](メニュー)ボタン

詳細設定の画面を開きます。詳しくはリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。

STORE



[STORE](ストア)ボタン

⇒ ストア画面(40ページ)

自分で作ったキット、クリック、トリガー設定、ライブセットを保存します。

EXIT



[EXIT](エグジット)ボタン

実行をキャンセルしたり、1つ上の階層の画面へ戻ったりするときに使います。

NOTE

キットの音を止めたいときにも、このボタンを押します。(各モードのトップ画面にいる場合)

スライダー

音量を調節します。

[AUX IN] (外部入力)

フロントパネルとリアパネルの[AUX IN]端子

[AUDIO] (オーディオ)

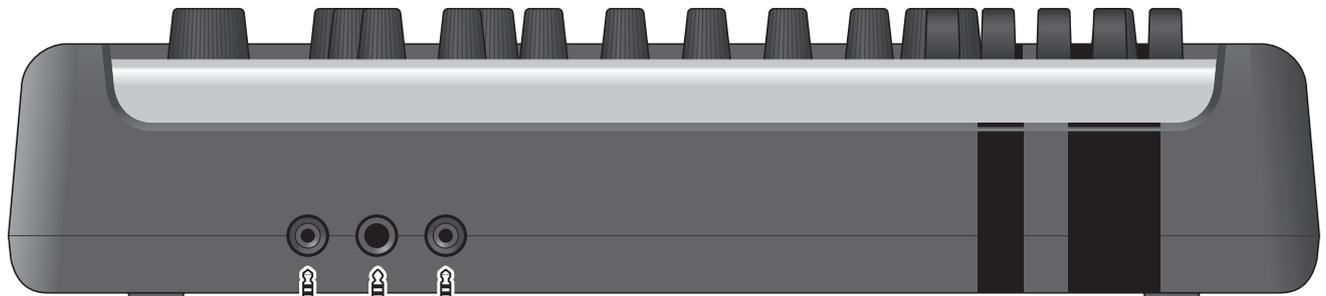
USBオーディオ、Bluetoothオーディオ、ソング、レコーダー再生音

[CLICK] (クリック)

[OUTPUT] (出力) OUTPUT [R]、[L/MONO]端子

[PHONES] (ヘッドホン)

フロントパネル



ステレオミニフォン
プラグ(3.5mm)

ステレオ標準フォンプラグ
(6.3mm)

ステレオミニプラグ
(3.5mm)



**[PHONES](ヘッドホン)端子
(16ページ)**

ヘッドホンを接続します。左側
がステレオ標準フォンタイプ
(6.3mm)、右側がステレオミニ
タイプ(3.5mm)の出力端子で
す。



⚠ 注意

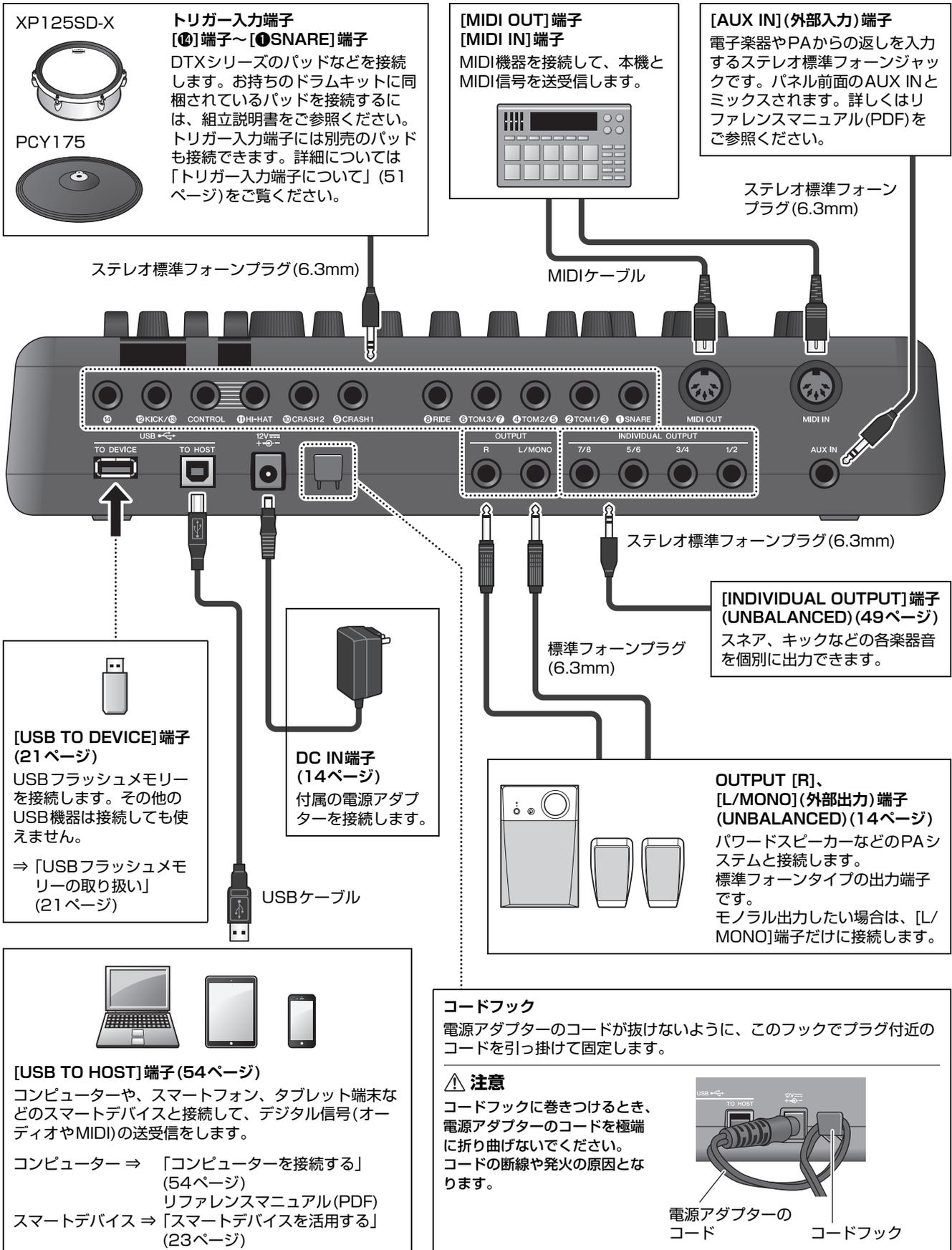
大きな音量で長時間ヘッドホンを
使用しないでください。聴覚障害
の原因になります。



[AUX IN](外部入力)端子

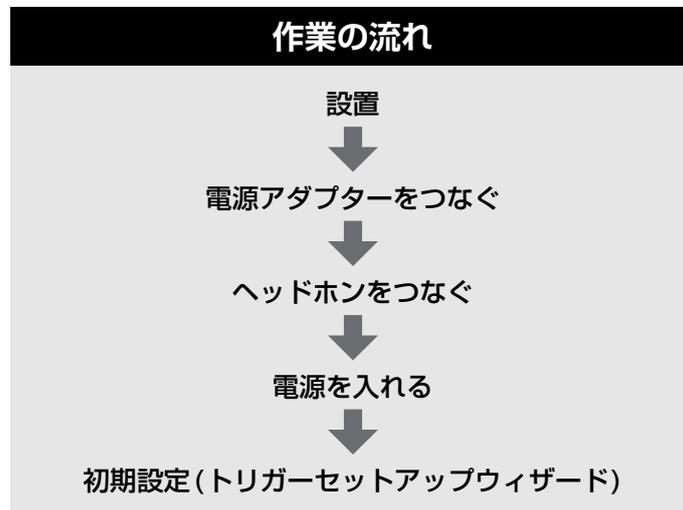
携帯用音楽プレーヤーやスマートデバイスなどの
ヘッドホン端子と接続します。

リアパネル



演奏するための準備

設置や初期設定など、演奏の準備をします。



以上で準備完了です。

設置

本機を設置します。以下のような設置方法があります。

- ドラムキットのラックに取り付ける(組立説明書を参照)
- 付属のモジュールホルダー(6ページ)と組み合わせて標準のドラムハードウェアに取り付ける
(「アコースティックドラムに電子ドラムを組み込む」 53ページ)
- 台などの上に置く

設置のあと、パッドのケーブルと接続します。接続方法については、ドラムキットの組立説明書をご参照ください。

■ 電源アダプターをつなぐ

⚠ 警告

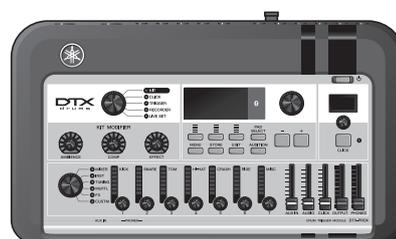
電源アダプターは、必ず指定のもの(60ページ)をご使用ください。異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねることがございますので、十分にご注意ください。

⚠ 注意

本機はコンセントの近くに設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

1. 電源がオフの状態(パネルのランプがすべて消え、画面に何も表示されていない状態)になっていることを確認します。

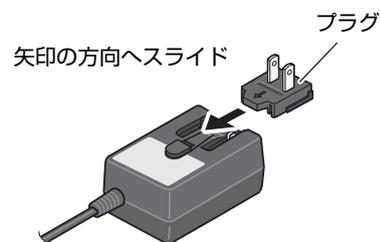
画面オフ



2. プラグが外れるタイプのみ：
プラグが外れていないことを確認します。

⚠ 警告

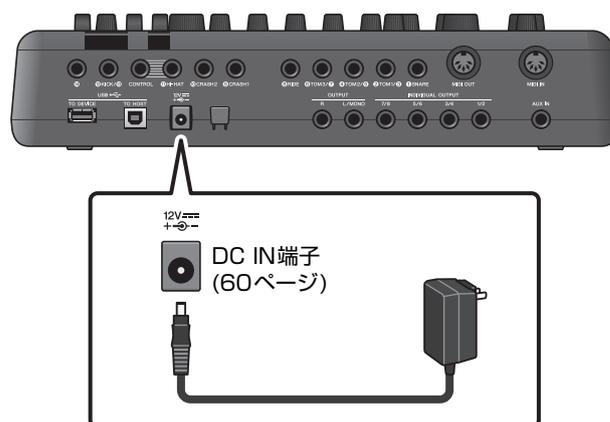
- プラグが外れるタイプの電源アダプターは、必ずプラグを装着した状態で使用、または保管してください。プラグ部分だけをコンセントに差し込むと、感電や火災の原因になります。
- プラグが外れた場合は、内部の金属部分に触れないように注意して、カチッと音がするまで完全に差し込んでください。また異物が入らないようにご注意ください。感電やショート、故障の原因になります。



3. 電源アダプターを接続します。

⚠ 警告

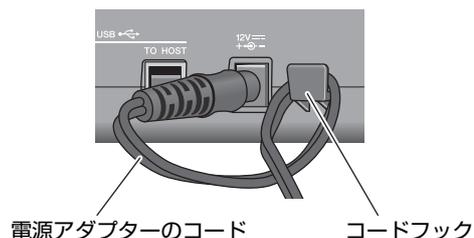
電源アダプターは必ず指定のものをお使いください。



4. 電源アダプターのコードをコードフックに巻きつけて固定します。

⚠ 注意

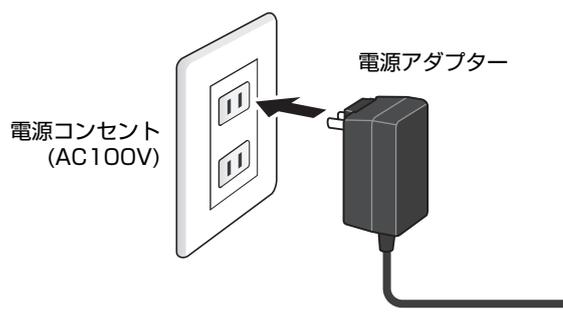
コードフックに巻きつけるとき、電源アダプターのコードを極端に折り曲げないでください。コードの断線や発火の原因となります。



5. 電源アダプターのACプラグを家庭用(AC100V)コンセントにさし込みます。

⚠ 注意

[⏻] (スタンバイ/オン) スイッチがスタンバイの状態でも微電流が流れています。長時間使わないときは必ずプラグをコンセントから抜いてください。



NOTE

電源アダプターを外すときは、電源を切ってから、逆の手順で行ってください。

■ ヘッドホンをつなぐ

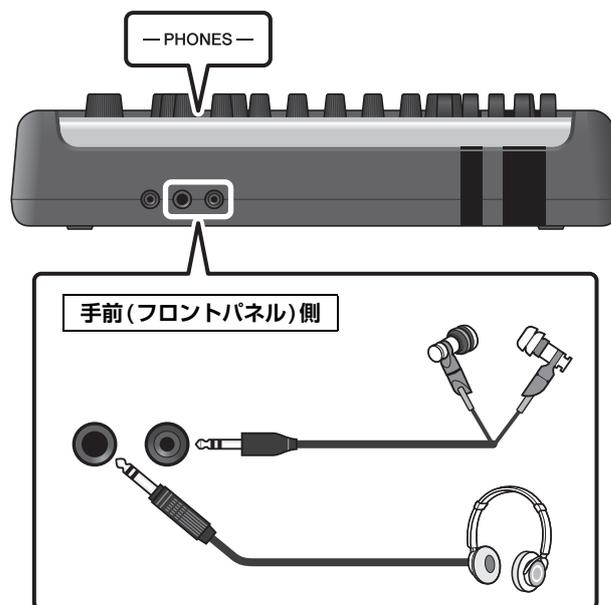
ヘッドホンを[PHONES](ヘッドホン)端子に接続します。

⚠ 注意

大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

ヘッドホンの音量は[PHONES]スライダーで調節します。ヘッドホンEQを調節したい場合は、フェーダーセレクトノブで「CUSTM」を選び、LEDロータリーフェーダーで調節します。

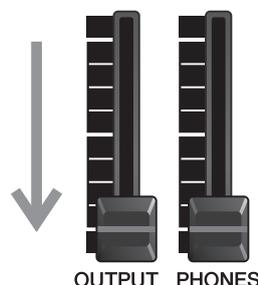
ステレオ標準フォーン端子とステレオミニ端子が使用できます。ヘッドホンの端子形状に合わせて、どちらかの端子を使用してください。同時に2つの端子にヘッドホンを接続すると出力が小さくなる場合があります。



電源を入れる、切る

■ 電源を入れる

1. [OUTPUT]スライダーと[PHONES]スライダーを下げ、本機の音量を最小にします。



2. [⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押します。



重要

初期設定(トリガーセットアップウィザード)

本機では、お買い上げ後に初めて電源を入れたときにだけ初期設定(トリガーセットアップウィザード)の画面が表示されます。初期設定でお買い上げのドラムセットを選ぶことにより、すべてのパッドのトリガー出力レベルが最適な状態になるように自動的に設定されます。

1. お買い上げのドラムセットを[-][+]で選び、「OK」の下のボタン([F3])ボタンを押します。
お買い上げのドラムセット名がわからないときは、ドラムセットの組立説明書をご参照ください。パッドの種類(DTX**K-XとDTX**K-M)の違いにも注意してください。
2. 確認の画面が表示されたら、「YES」の下のボタン([F1])を押します。
初期設定が完了すると、液晶ディスプレイにキット画面が表示されます。

NOTE

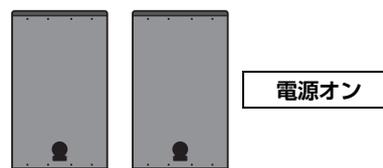
初期設定を行った後でもドラムセットを変えられます。(「トリガー設定を変える」(45ページ))

初期設定が完了している場合は、液晶ディスプレイにオープニング画面が表示された後、キット画面が表示されます。



* XSTICK : パッドの種類によっては非表示

3. PAシステムに接続している場合 : 外部スピーカーの電源を入れます。

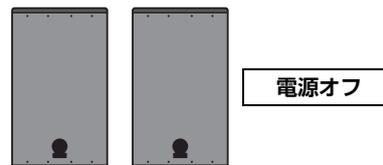


■ 電源を切る

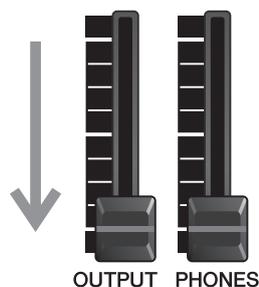
注記

- 電源オフ時に本機の設定は自動的に保存されます。液晶ディスプレイが完全に消えるまで電源アダプターを抜かないでください。
- 保存(ストア)していないキット、クリック、トリガー設定、ライブセットのデータは消去されるため、電源オフ前に必ず保存(ストア)を実行してください。

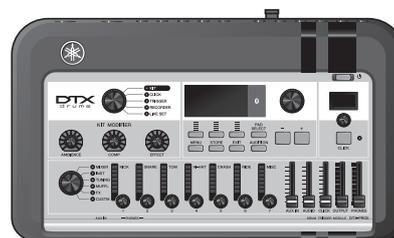
1. PAシステムに接続している場合：
外部スピーカーの電源を切ります。



2. [OUTPUT]スライダーと[PHONES]スライダーを
下げて、本機の音量を最小にします。



3. [⏻](スタンバイ/オン)スイッチを長押しします。
液晶ディスプレイやランプが消灯し、スイッチを
切った状態(スタンバイ)になります。



すべて消灯

全体の設定を変える

■ オートパワーオフ(自動電源オフ)

オートパワーオフとは、本機を一定時間操作しなかった場合、自動的に電源がオフになる機能です。工場出荷時は30分で設定されています。

注記

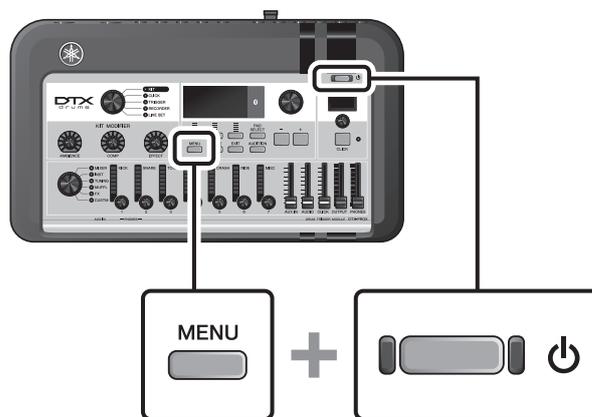
- オートパワーオフで電源が切れた場合、保存(ストア)していないデータは消去されます。電源が切れる前に必ず保存(ストア)してください。
- 本機の状態によっては、一定時間操作せずにオートパワーオフの設定時間が経過しても電源が切れない場合があります。使用後は、手動で本機の電源を切ってください。
- 外部オーディオ機器やPA機器などを本機に接続した状態で、一定時間本機を操作しない場合は、外部オーディオ機器の音量をゼロにしておくことをおすすめします。本機の電源が自動的に切れないようにするには、オートパワーオフを解除してください。

NOTE

オートパワーオフで電源が切れるまでの時間を30分以上にしたい場合には、[MENU]ボタンからオートパワーオフの設定を変更できます。(MENU/Utility/General)

● オートパワーオフの簡単解除

電源が切れた状態で、[MENU]ボタンを押しながら[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押すと、オートパワーオフ機能が解除されます。この場合、解除の設定は自動的に保存されます。



■ 本機の設定を初期の状態に戻す (ファクトリーリセット)

ファクトリーリセットを実行すれば、本機の設定を誤って書き換えてしまった場合でも、初期の状態に戻すことができます。

注記

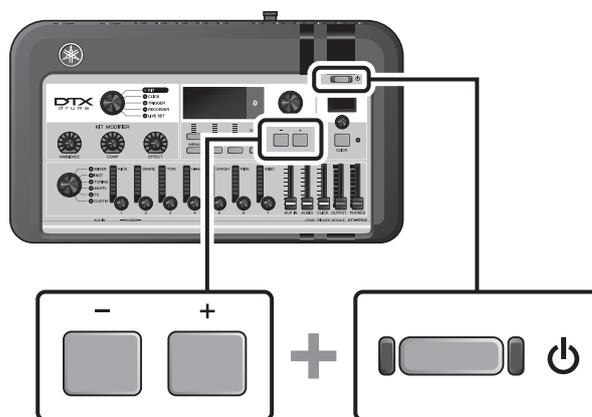
ファクトリーリセットを行うと、設定したすべてのデータが消え、工場出荷時の状態に戻ります。大切なデータは、ファクトリーリセットを行う前にUSBフラッシュメモリーに保存してください。データの保存について詳しくはリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。(MENU/File)

● ファクトリーリセットを行う

電源が切れた状態で、[-]ボタンと[+]ボタンを押しながらか[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押すと、ファクトリーリセットが実行されます。

NOTE

[MENU]ボタンからファクトリーリセットを選んで実行することもできます。(MENU/Factory Reset)



USBフラッシュメモリの取り扱い

本機リアパネルの[USB TO DEVICE]端子にUSBフラッシュメモリーを接続すると、自分の演奏をUSBフラッシュメモリーに直接録音できます。また本機の設定をUSBフラッシュメモリーに保存(セーブ)したり、読み込んだり(ロード)できます。

■ USBフラッシュメモリーを本機に接続する

[USB TO DEVICE] 端子のご使用上の注意

本機の[USB TO DEVICE]端子にUSBフラッシュメモリーを接続するときは、以下のことを守ってください。

NOTE

USBフラッシュメモリーの取り扱いについては、お使いのUSBフラッシュメモリーの取扱説明書もご参照ください。

● 使用できるUSB機器

USBフラッシュメモリーのみ

動作確認済みのUSBフラッシュメモリーについては下記URLでご確認ください。

<https://download.yamaha.com/jp/>

NOTE

- 上記以外のUSB機器(USBハブ、マウス、コンピューターのキーボードなど)は、接続しても使えません。
- [USB TO DEVICE]端子へのUSB機器の接続にはケーブルは使用できません。

注記

[USB TO DEVICE]端子の定格は最大5V/500mAです。定格を超えるUSB機器は故障の原因になるため、接続しないでください。

● USBフラッシュメモリーの接続

[USB TO DEVICE]端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。

本機では、USB2.0またはUSB3.0のフラッシュメモリーが使用できますが、保存や読み込みにかかる時間は、データの種類や本機の状態により異なります。

注記

- USBフラッシュメモリーの抜き差しは、再生中、録音中、ファイルの操作中(保存/コピー/削除/フォーマットなど)、およびUSB機器へのアクセス中には行わないでください。本機の機能が停止したり、USBフラッシュメモリーやデータが壊れたりするおそれがあります。
- USBフラッシュメモリーの抜き差しは、数秒間隔を空けて行ってください。

● USBフラッシュメモリーの初期化(フォーマット)

USBフラッシュメモリーの中には、本機で使用する前に初期化が必要なものがあります。USBフラッシュメモリーの初期化の手順については、リファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。(MENU/File/Format)

注記

初期化すると、そのUSBフラッシュメモリーの中身は消去されます。必要なデータが入っていないことを確認してから初期化してください。

● 誤消去防止

USBフラッシュメモリーには、誤ってデータを消してしまわないようにするため、データの書き込み保護ができるものがあります。大切なデータが入っている場合は、データの書き込み保護を有効にし、書き込みができないようにしてください。データを保存する場合などは、ご使用前にお使いのUSBフラッシュメモリーのデータの書き込み保護が解除されていることをご確認ください。

スマートデバイスを活用する

[USB TO HOST]端子にスマートデバイスを接続すると、デジタル接続で以下のことができます。

- アプリを使って高音質での録音再生
- Rec' n' Shareを使って練習、録音録画、SNSなどでシェア

注記

- 接続の前に、外部機器のボリュームが最小になっていることを確認してください。
- スマートデバイスを不安定な場所に置かないでください。スマートデバイスが落下して破損するおそれがあります。

NOTE

スマートデバイスのアプリケーションと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためスマートデバイスの機内モードをオンにしてからWi-Fiをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。

接続にはUSBケーブルや接続用のパーツが必要です。

接続のしかたについては、ウェブサイト上の「スマートデバイス接続マニュアル iOS用」(PDF)または「スマートデバイス接続マニュアル Android™用」(PDF)をご参照ください。

対応のスマートデバイスや、Rec' n' Shareなどのスマートデバイスアプリケーションについては詳しくは、ウェブサイト上の下記ページでご確認ください。

<https://download.yamaha.com/jp/>

Bluetooth対応機器のオーディオデータを本機で鳴らす (Bluetoothオーディオ機能)

Bluetoothオーディオ機能を使う前に、必ず5ページの「Bluetoothについて」をお読みください。

スマートフォンや携帯音楽プレーヤーなどのBluetooth対応機器*と接続すると、その機器で再生するオーディオデータを本機に接続したヘッドホンやスピーカーなどから鳴らせます。入力されたオーディオデータは録音することもできます(46ページ)。

* Bluetooth 対応機器

本書におけるBluetooth対応機器とは、Bluetooth機能を使って、無線でオーディオデータを送信できる機器のことをいいます。(例：スマートフォン、携帯オーディオプレーヤーなど)

NOTE

Bluetoothヘッドホンやスピーカーは接続できません。

Bluetooth対応機器とペアリングする

Bluetoothを使って初めて接続する場合、Bluetooth対応機器と本機をペアリングする必要があります。一度ペアリングした機器は、再度ペアリングの必要はありません。

● ペアリング

Bluetooth対応機器を本機に登録し、無線通信できるように設定することをペアリングといいます。

1. [MENU] ボタンを長押しします。

画面がペアリング待機状態になります。
ペアリングを中止するには「CANCEL」の下のボタン([F3])を押します。

2. Bluetooth対応機器のBluetooth機能をオンにして、接続リストから本機のモデル名「DTX-PROX AUDIO」を選びます。

- Bluetooth対応機器の設定は、5分以内に行ってください。5分を経過すると、ペアリングモードが自動的に終了します。
- パスキーの入力を要求された場合は、数字で「0000」を入力してください。



ペアリングが完了すると、各モードのトップ画面右上に  (Bluetooth) マークが表示されます。

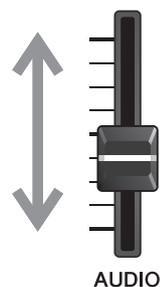


3. Bluetooth 対応機器でオーディオデータを再生し、本機に接続したヘッドホンやスピーカーから音が出ることを確認します。

Bluetooth 対応機器からの入力音量は、本機の [AUDIO] スライダーで調節します。

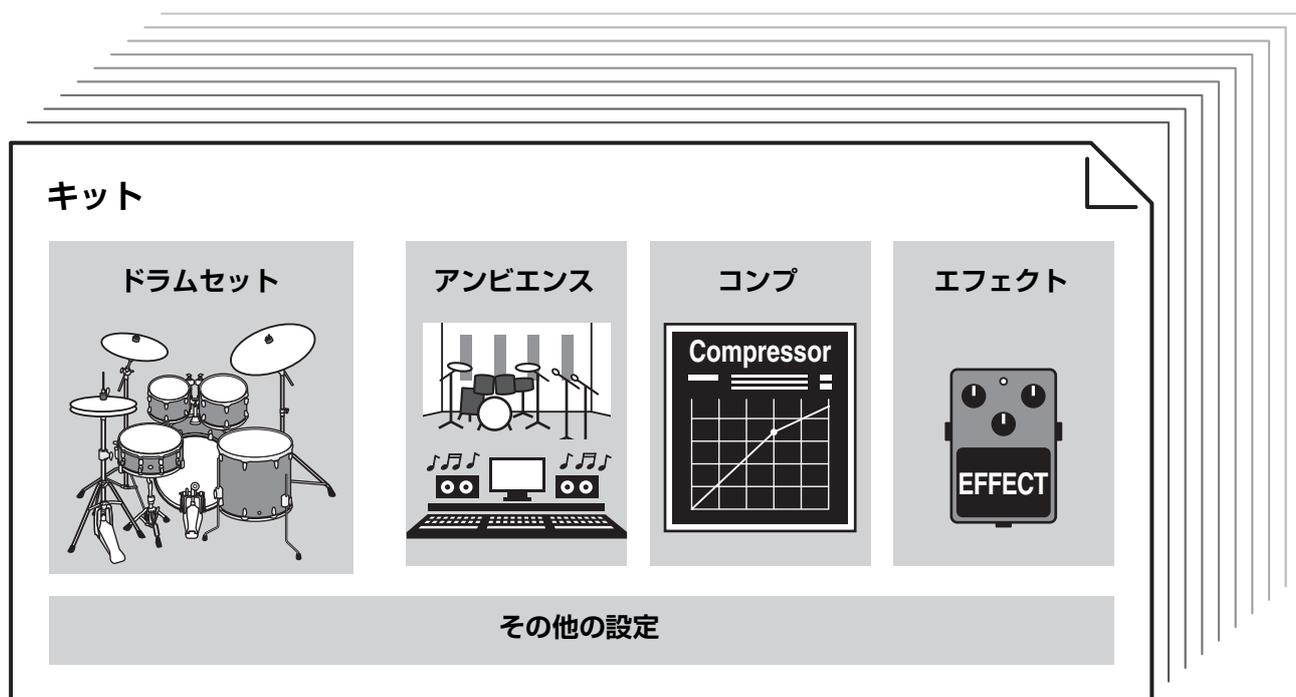
次に本機の電源を入れたとき、本機と Bluetooth 対応機器の Bluetooth 機能がオンであれば、前回最後に接続した機器と自動で接続します。自動で接続できない場合は、Bluetooth 対応機器の接続リストから再度モデル名を選択してください。

本機の Bluetooth 機能のオンとオフを切り替えるには、[MENU] ボタンを押して設定画面を開きます。詳しくはリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。(MENU/Bluetooth)



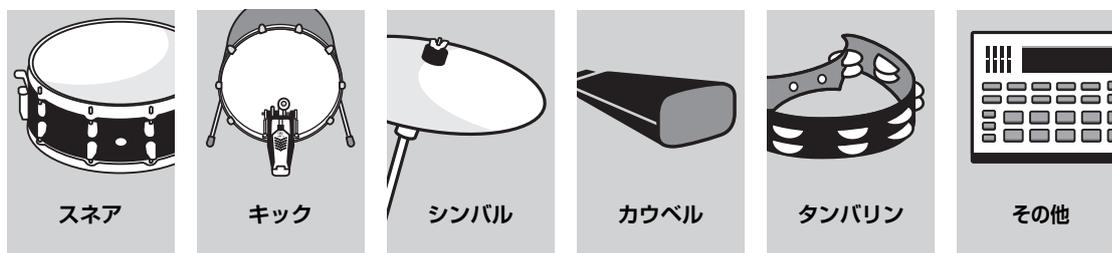
キットのしくみ

キットとは、ドラムセットの音にアンビエンス、コンプ、エフェクトなどの音色効果を組み合わせたものです。本機にはプリセットのキットが搭載されており、キットを切り替えたり、アンビエンスなどを調節(モディファイ)することで音の鳴りかたが変わります。



ドラムセット内の各打楽器の音は「インスト」と呼び、ドラムパッドを叩くことでインストを鳴らせます。

インスト(例)

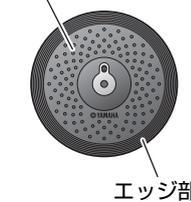


パッドの叩きかた

インストの音を鳴らすには、本機に接続されているパッドを叩きます。

叩く部位(ゾーン)により何種類の音を鳴らし分けできるかは、パッドの種類によります。

位置検出機能が使える場合は、同じ部位の中でも叩く位置を少し変えることで、さらに細かい変化をつけられます。

パッドの種類	マルチピエゾ	シングルピエゾ			
	ゾーン数	2	1	2	3
	叩く部位によって2種類の音色を鳴らし分けできます。	1種類の音色を鳴らせます。「モノラルパッド」や「1ゾーンパッド」とも呼びます。	叩く部位によって2種類の音色を鳴らし分けできます。	叩く部位によって3種類の音色を鳴らし分けできます。「3ゾーンパッド」とも呼びます。	
ゾーン	 リム部 ヘッド部	 パッド部	 ボウ部 エッジ部	 ボウ部 カップ部 エッジ部	 パッド部 Bリム部 Aリム部
パッド例	XP125SD-X	TP70	RHH135	PCY135	XP80

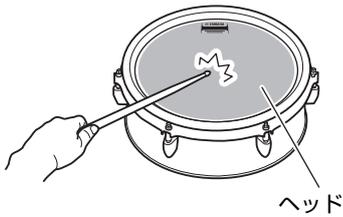
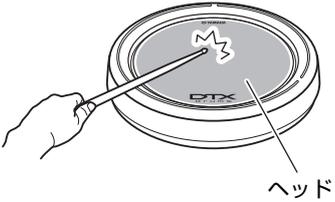
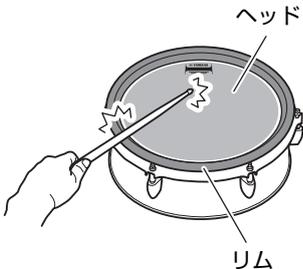
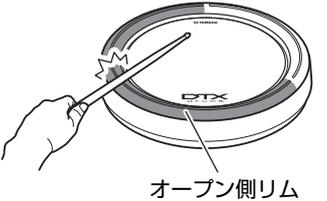
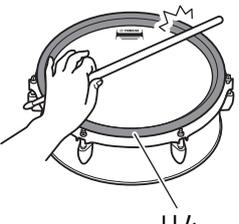
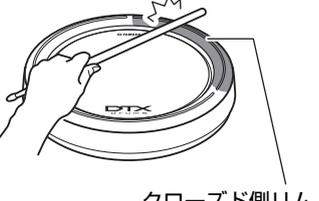
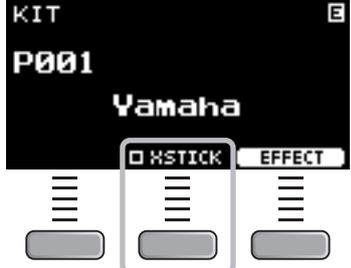
NOTE

ドラムスティックやビーターの種類については、パッドの取扱説明書をご参照ください。

■ スネア タム

アコースティックのスネアやタムと同じように、部位を叩き分けて演奏できます。

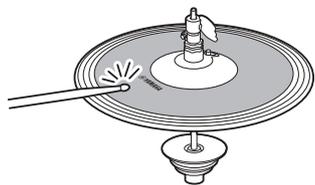
スネアパッド([●SNARE]端子に接続されている位置検出機能付きのパッド)は、叩く位置によって音が自然に変化します。

ヘッドショット		
		<p>ヘッドを叩きます。</p> <p>位置検出機能付きマルチピエゾパッドの場合： 特定のスネア音色では、ヘッドの中心からエッジにかけて叩いた位置の違いによる自然な音色変化が得られます。</p>
オープンリムショット		
		<p>ヘッドとリムを同時に叩きます。</p> <p>ヘッドショットとは別の音(リム音)が鳴ります。</p> <p>位置検出機能付きマルチピエゾパッドの場合： 通常のリムショットと浅いリムショットが使えます。リムショットの叩きかたの違いによって音色のニュアンスが変化します。</p> <p>シングルピエゾ3ゾーンパッドの場合： オープン側のリムを叩きます。</p>
クローズドリムショット(クロススティック)		
		<p>リムだけを叩きます。</p> <p>ヘッドには触らないようにします。</p> <p>マルチピエゾパッドの場合： キット画面の「XSTICK」の下のボタン([F2])を押して、オン(クロススティック音が鳴る)とオフ(オープンリムショット音が鳴る)を切り替えます。</p>
 <p>シングルピエゾ3ゾーンパッドの場合： クローズド側のリムを叩きます。</p>		

■ ハイハット

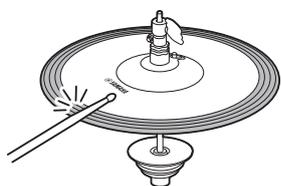
アコースティックのハイハットシンバルと同じように、部位を叩き分けて演奏できます。

ボウショット



ハイハットのカップとエッジの中間地点を叩きます。

エッジショット



ハイハットのエッジ手前側を叩きます。

*1

パッドエッジ面に対してスティックが平行に当たるように叩いてください。真横から叩くとエッジのスイッチが入りません。

オープン/クローズ

- ・ハイハットペダルを踏まない状態でハイハットパッドを叩くと、ハイハットオープンの音が鳴ります。
- ・ハイハットペダルを踏んだ状態でハイハットパッドを叩くと、ハイハットクローズの音が鳴ります。
- ・ハイハットペダルの踏み具合によってオープンからクローズまで音色が変化します。

フットクローズ

ハイハットパッドを叩かずにハイハットペダルを踏み込むと、フットクローズの音が出ます。

ハイハットスプラッシュ

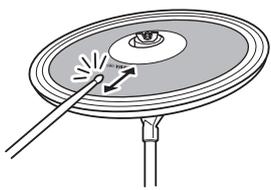
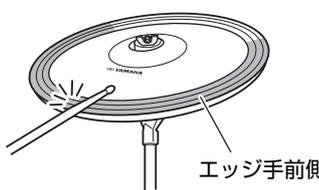
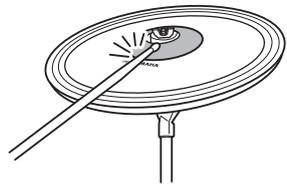
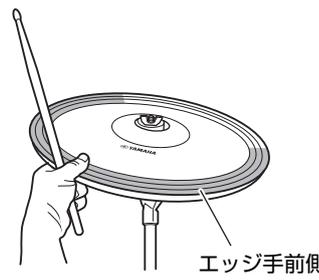
ハイハットペダルを瞬間的に踏んですぐ離すと、ハイハットスプラッシュの音が出ます。

*1 ヤマハロゴがあるほうが手前側です。

■ シンバル

アコースティックのシンバルと同じように、部位を叩き分けて演奏できます。

ライドシンバル([RIDE]端子に接続されている位置検出機能付きのパッド)は、叩く位置によって音が自然に変化します。

ボウショット	
	<p>シンバルのカップとエッジの間地点を叩きます。</p> <p>ライドシンバルは手前側を叩くと、叩く位置によって音が自然に変化します。</p> <p>*1</p>
エッジショット	
	<p>シンバルのエッジ手前側を叩きます。</p> <p>*1</p> <p>パッドエッジ面に対してスティックが平行に当たるように叩いてください。真横から叩くとエッジのスイッチが入りません。</p>
ベルショット	
	<p>カップの部分を叩きます。</p>
チョーク奏法	
	<p>叩いたシンバルのエッジ手前側を手でつかむと音が止まります。</p> <p>*1</p>

ミュート奏法



シンバルのエッジ手前側をつかんだ状態で叩きます。音色が変化します。

*1

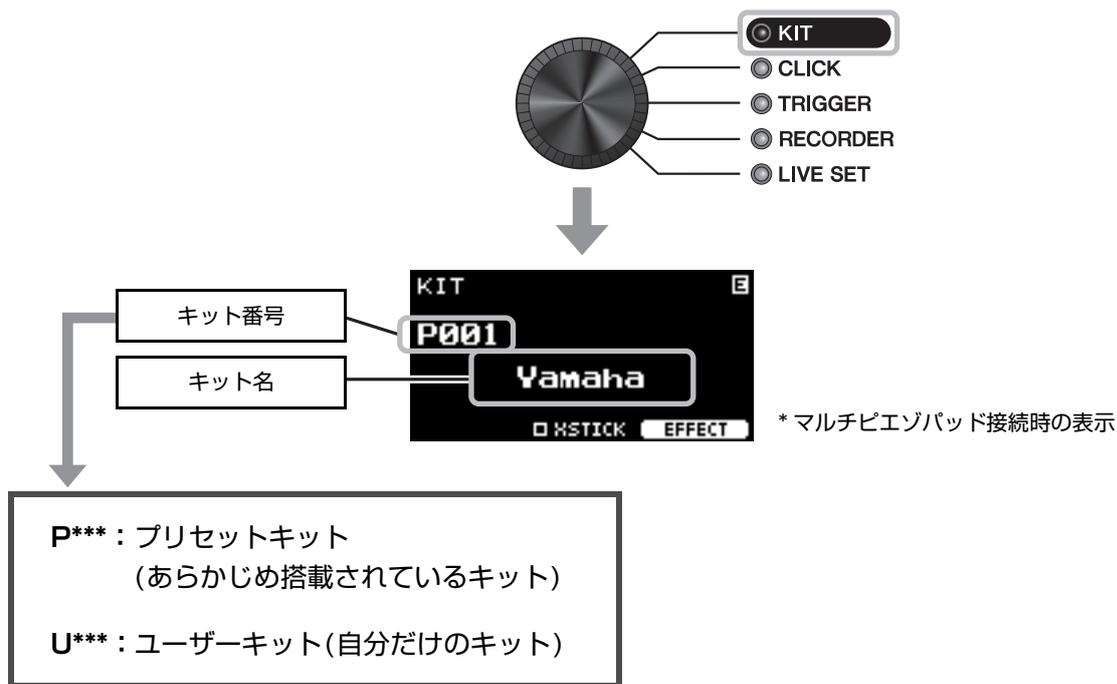
*1 ヤマハロゴがあるほうが手前側です。

DTX-PROXの基本操作

■ キットを切り替える

1. モードセレクトノブで「KIT」を選びます。

キット画面が表示されます。



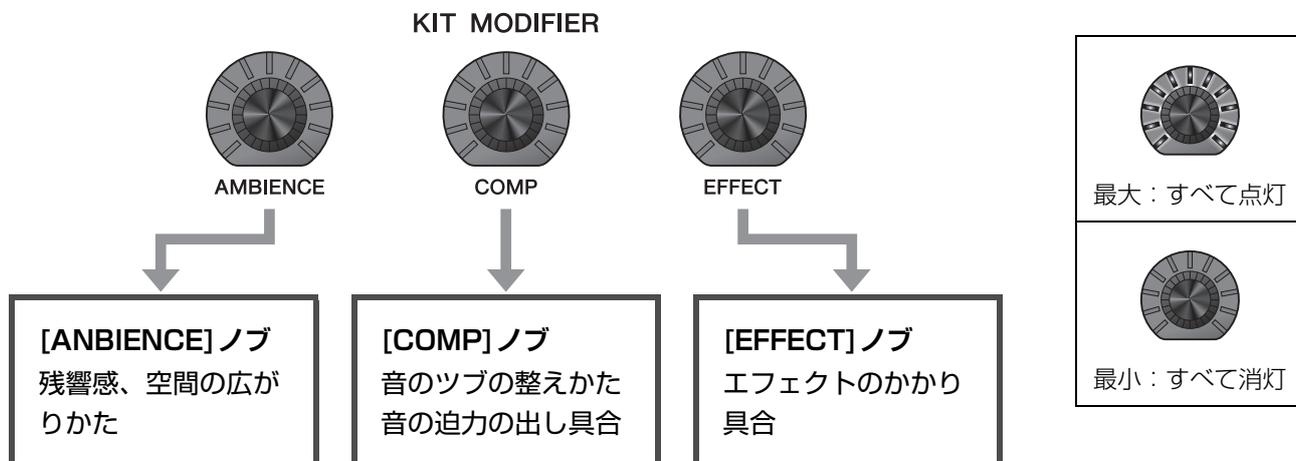
2. [-][+]でキットを選びます。



NOTE

編集中のキットを保存(ストア)しないで切り替えてしまった場合、リコール機能によって編集中の内容呼び戻すことができます。詳しくはリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。(MENU/Job/Kit/Recall)

■ 音色効果を調節(モディファイ)する

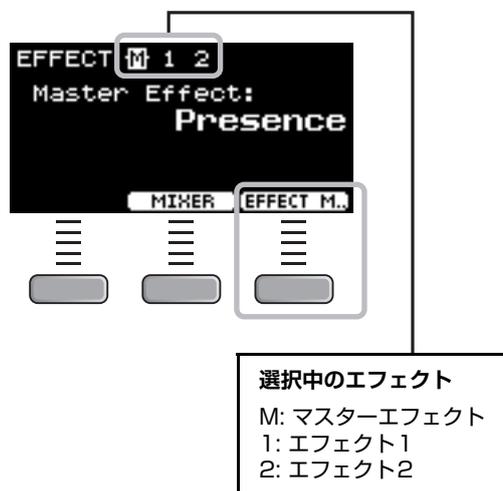


■ エフェクトの種類を変える

1. 「EFFECT」の下のボタン([F3])を押します。



2. 「EFFECT M..」の下のボタン([F3])を押して、設定したいエフェクトを選びます。



3. [-][+]でエフェクトの種類を選びます。

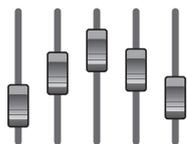


ドラムセットの音を変える(自分の好きなドラムセットを組む)

ドラムセットの音を変える(自分の好きなドラムセットを組む)

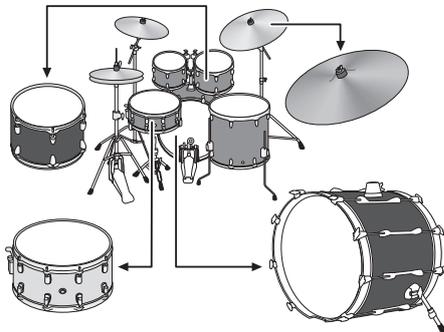
本機では、キット内のドラムセットを変更して、自分だけのドラムセットを組むことができます。以下のようなカスタマイズが可能です。

● 音量バランスを整える

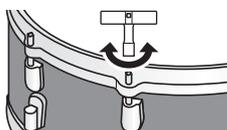


● インストを差し替える

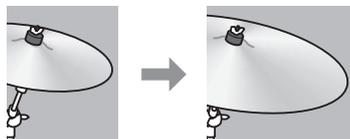
ドラムセット



● チューニングを変える



● シンバルサイズを変える



● マフリング(ミュート)する

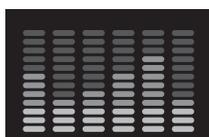


- シンバルのサステインの長さ
- ハイハットクラッチの位置調節
など

● エフェクトのかかり具合を変える



● カスタム設定をする



より細かく設定を変えたい場合には、[MENU]ボタンを押して詳細設定を行います。詳しくはリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。(MENU/Kit Edit/Inst または MENU/Kit Edit/Voice)

■ 音量バランスを整える

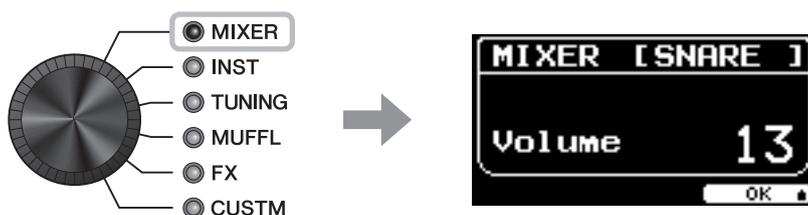
ミキサーを使って音量バランスを調節します。

NOTE

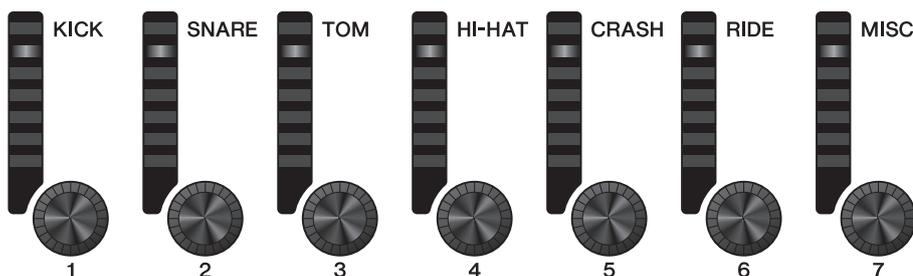
- ・ミキサー設定はキットを切り替えても保持されます。
- ・キットごとの設定には保存されません。

1. フェーダーセレクトノブで「MIXER」を選びます。

ミキサー設定画面が表示されます。



2. LEDロータリーフェーダーのノブを回して調節します。



表示	KICK	SNARE	TOM	HI-HAT	CRASH	RIDE	MISC
パッド	キック	スネア	タム1 タム2 タム3	ハイハット	クラッシュ1 クラッシュ2	ライド	その他
パッドが接続されているトリガー入力端子	⑫KICK	①SNARE	②TOM1 ④TOM2 ⑥TOM3	⑪HI-HAT	⑨CRASH1 ⑩CRASH2	⑧RIDE	③、⑤、 ⑦、⑬、⑭

パッドごとに音量を調節したい場合は、[MENU]ボタンを押してインストの音量設定を調節します。パッド部位ごとの音量を調節したい場合は、[MENU]ボタンを押してボイスの音量設定を調節します。詳しくはリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。

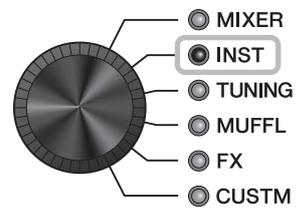
3. 「OK」の下のボタン([F3])を押します。



■ インストを差し替える

1. フェーダーセレクトノブで「INST」を選びます。

インスト画面が表示されます。



2. インスト設定を変えたいパッドを叩いて選びます。

画面右上にパッド名が表示されたのを確認します。

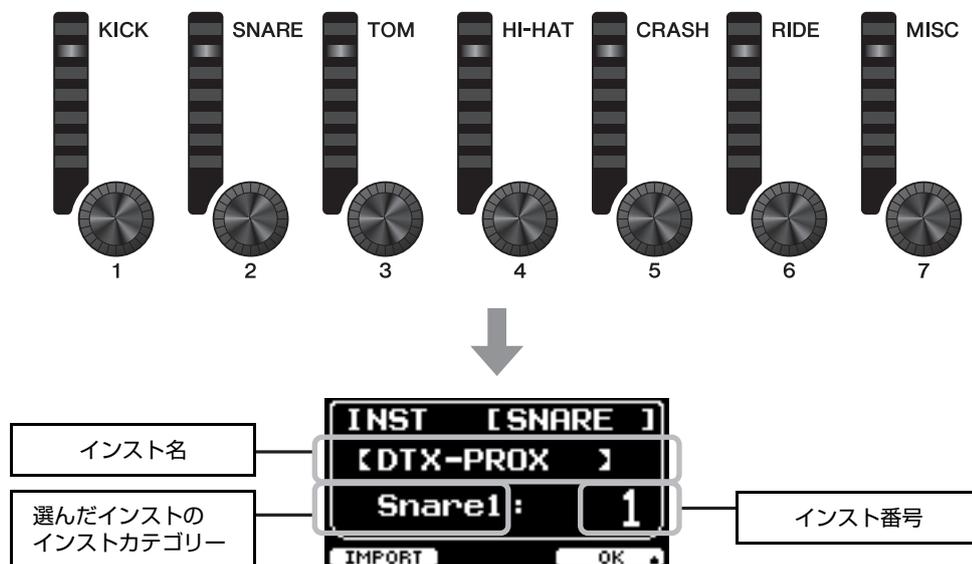
NOTE

TOM、CRASH、MISCのパッドは、[PAD SELECT]ボタンでもパッドを切り替えられます。詳しくはリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。



3. LEDロータリーフェーダーのノブを回してインストを選びます。

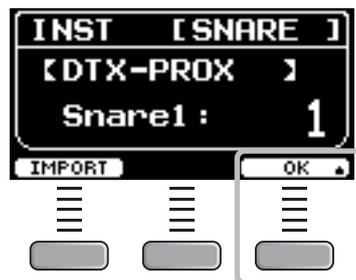
選んだインストが画面に表示されます。



NOTE

TOM、CRASH、MISCのパッドは、[PAD SELECT]ボタンでもパッドを切り替えられます。詳しくはリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。

4. 「OK」の下のボタン([F3])を押します。



■ 外部の音色(ウェーブ)を使う

本機では、オーディオファイル(.WAV)を取り込んでインストとして鳴らすこともできます。

オーディオファイルの取り込みかたや設定について詳しくはリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。

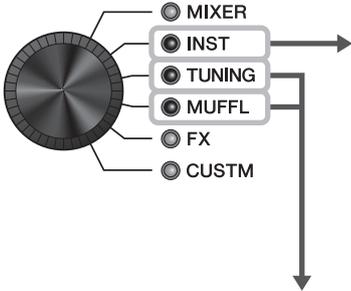
USBフラッシュメモリの取り扱いについては「USBフラッシュメモリの取り扱い」(21ページ)をご覧ください。

ドラムセットの音を変える(自分の好きなドラムセットを組む)

■ チューニングやマフリング(ミュート)などの設定を変える

チューニングやマフリング(ミュート)などのインストの設定を変えられます。

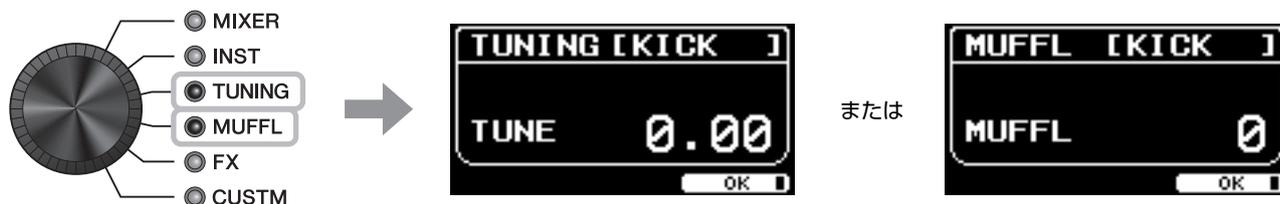
「TUNING」や「MUFFL」で変えられる設定項目は、「INST」から選んだインストのインストカテゴリーによって変わります。



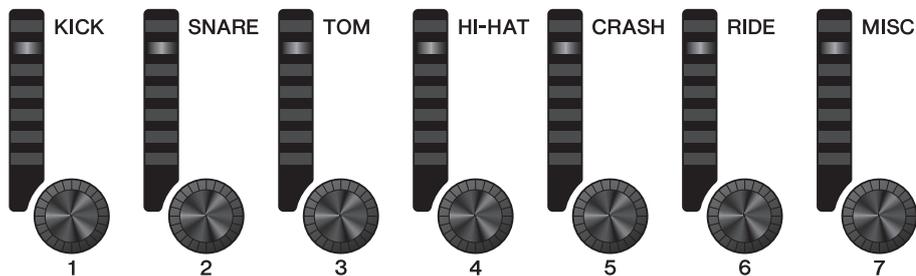
	INSTのインストカテゴリー			
	Kick1 Kick2 Snare1 Snare2 Tom1 Tom2	Cymbal1 Cymbal2	HiHat1 HiHat2	Perc Effect User
TUNING	Tuning チューニング(ピッチ)が変化します。	Size シンバルのサイズが変化する効果が得られます。	Size シンバルのサイズが変化する効果が得られます。	Tuning チューニング(ピッチ)が変化します。
MUFFL	Muffling マフリング(ヘッドのミュート具合)を調節した効果が得られます。	Sustain シンバルのサステインを調節した効果が得られます。	Clutch ハイハットクラッチの位置を調節した効果が得られます。設定値が小さいほどハイハットオープン音が速く減衰します。 NOTE ハイハットクラッチの設定は、すべてのキットに共通です。	Decay 音が減衰する速さを調節できます。

1. フェーダーセレクトノブで「TUNING」または「MUFFL」を選びます。

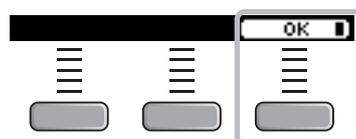
設定画面が表示されます。



2. LEDロータリーフェーダーのノブを回して調節します。



3. 「OK」の下のボタン([F3])を押します。



■ インストごとのエフェクトのかかり具合を変える

インストごとにエフェクトの設定ができます。

以下のエフェクトのかかり具合などを設定できます。(エフェクト1、エフェクト2、トランジェントなど)

たとえば、スネアだけに深くエフェクトをかけるなどに使います。

詳しくはリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。

■ カスタム設定をする

以下のような詳細設定ができます。

(Master EQ、Phones EQのゲイン、各クリックタイミングの音量、MIDIコントロールチェンジ送信など)

詳しくはリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。

NOTE

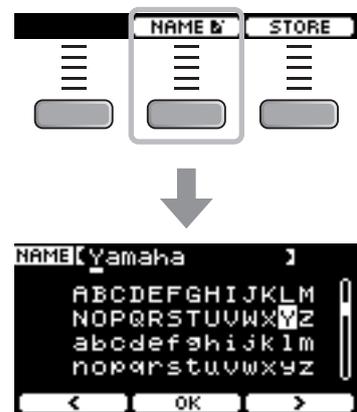
- CUSTM設定はキットを切り替えても保持されます。
- キットごとの設定には保存されません。

■ カスタマイズしたキットに名前をつけて保存する

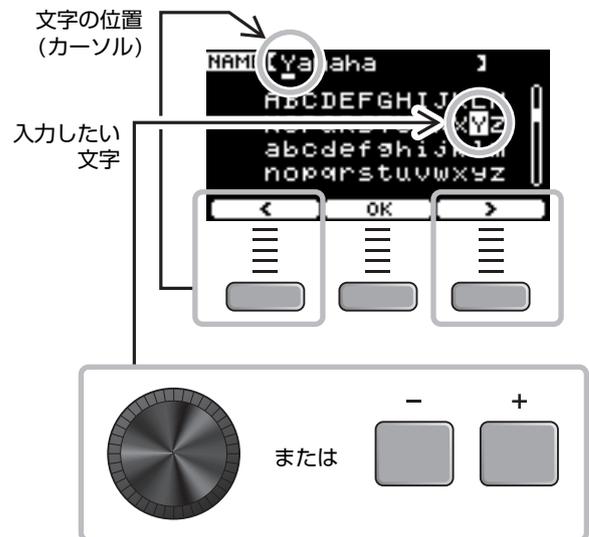
1. [STORE] ボタンを押します。
キットストア画面が表示されます。



2. 「NAME」 の下のボタン ([F2]) を押して、キット名の編集画面を開きます。



3. 「<」または「>」 の下のボタン ([F1] または [F3]) を押して文字位置を選び、[-][+] で入力したい文字を選びます。
最大12文字の長さでキット名を設定できます。



4. すべての文字の入力が終わったら、「OK」の下ボタン ([F2]) を押して、ストア先選択画面に戻ります。



5. [-][+]で保存先のユーザーキット番号を選びます。



6. 新しい保存先のキット番号とキット名が表示されているのを確認したら、「STORE」の下にあるボタン ([F3]) を押します。



NOTE

編集したキットはプリセットキットには保存できません。

注記

上書き保存すると新しい内容に書き換えられてしまいます。よく確認してから実行してください。

すでにキットが保存されている番号を選ぶと「Overwrite?」のメッセージが表示されます。上書き保存する場合は「YES」の下にあるボタン ([F1]) を押します。上書き保存しない場合には「NO」の下にあるボタン ([F3]) を押して前の画面に戻り、他の番号に変えます。



以上で保存が完了し、キット画面に戻ります。

クリック(メトロノーム)を使う

クリック(メトロノーム)を鳴らしながらパッドを叩くことで、正確なリズムで叩く練習ができます。

■ クリック(メトロノーム)を鳴らす

1. [CLICK](クリック)ボタンを押してクリックを鳴らします。

クリックテンポ表示に表示されたテンポでクリックが鳴ります。

[CLICK](クリック)ボタン右側のランプがクリックに合わせて赤く点滅します。



2. クリックを止めるには、もう一度[CLICK](クリック)ボタンを押します。

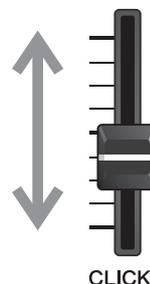
■ テンポを変える

1. [TEMPO](テンポ)ノブを回します。



■ クリックの音量を調節する

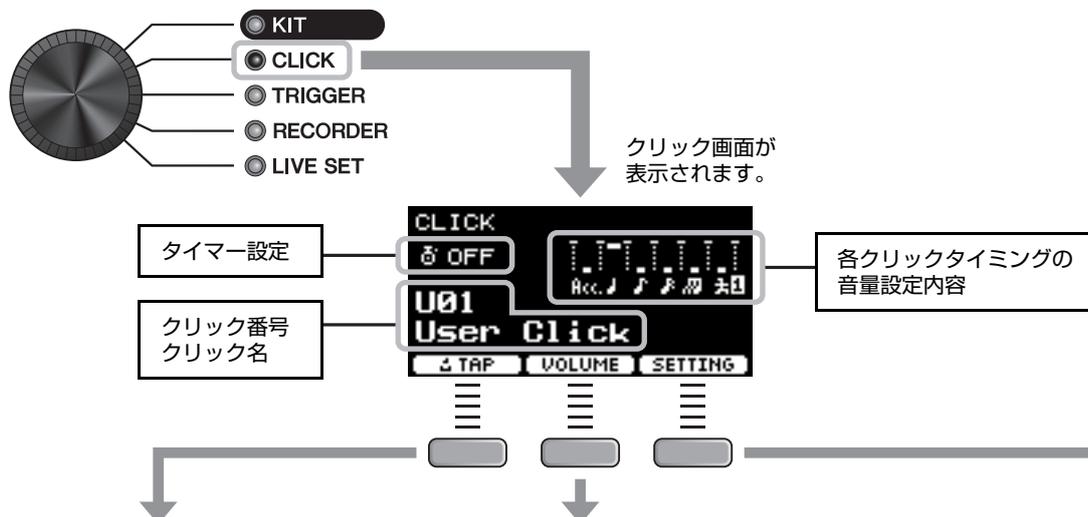
1. [CLICK]スライダーを動かします。



自分のクリック(メトロノーム)設定を作る

クリック(メトロノーム)のテンポ、音量などを設定します。

1. モードセレクトノブで「CLICK」を選びます。



ボタンを押すタイミングでテンポを決める (タップテンポ)

お好みのタイミングでボタンを押してテンポを決められます。

2. 「TAP」の下のボタン ([F1]) を押します。

タップ設定画面が表示されます。



3. 「TAP」の下のボタン ([F3]) を3回以上押します。



押したテンポが検出され、クリックテンポ表示に表示されます。

NOTE

トリガー入力端子に接続されているパッドを叩いてテンポを設定することもできます。

各クリックタイミングの音量を変える

2. 「VOLUME」の下のボタン ([F2]) を押します。

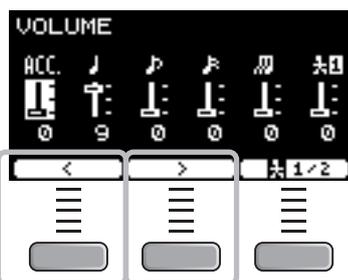
音量の設定画面が表示されます。



ACC.	小節の先頭
♪	4分音符
♪♪	8分音符
♪♪♪	16分音符
♪♪♪	8分3連符
人	ヒューマンボイス

拍子が3/8、6/8、9/8、12/8、15/8のときは、設定できる項目がAcc、付点4分、8分、16分です。ヒューマンボイス1と2は「人 1/2」の下のボタン ([F3]) で切り替えます。カウントのしかたが違います。

3. 「<」または「>」の下のボタン ([F1] または [F2]) を押してカーソルを動かし、[-] [+]で音量を調節します。



または



その他の設定を変える

拍子、タイマー設定、クリック音の種類や出力先など、その他の設定を変えられます。自分の好きなwavファイルをクリック音として使うこともできます。詳しくはリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。

■ カスタマイズしたクリックに名前をつけて保存する

カスタマイズしたクリック設定は、キットの保存と同じ手順で保存します。「カスタマイズしたキットに名前をつけて保存する」(40ページ)をご覧ください。

■ 保存したクリックを呼び出す

クリック画面が表示された状態にしてから、[-][+]でユーザークリックを選びます。



または



トリガー設定を変える

初期設定(トリガーセットアップウィザード)により、すべてのパッドのトリガー出力レベルが最適な状態になるように自動的に設定されますが、設定を切り替えたり、自分の好みに合わせてトリガー設定を作ったりすることもできます。カスタマイズしたトリガー設定は複数保存できます。

NOTE

トリガーセットアップウィザードで選んだ設定がユーザートリガー設定の1番に保存されます。

■ トリガー設定を作る

トリガー設定は「SETTING」の下のボタン([F3])から変更されます。詳しくはリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。



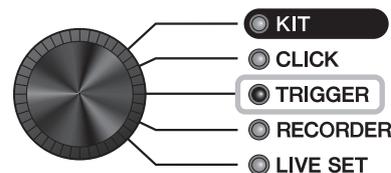
■ トリガー設定を保存する

自分で作ったトリガー設定は、キットの保存と同じ手順で保存します。「カスタマイズしたキットに名前をつけて保存する」(40ページ)をご覧ください。

■ トリガー設定を選ぶ

1. モードセレクトノブで「TRIGGER」を選びます。

トリガー画面が表示されます。



2. [-][+]でトリガー設定を選びます。



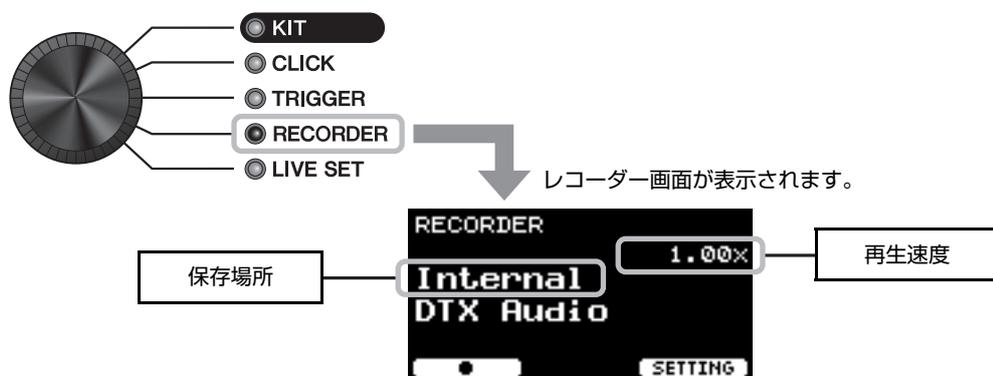
自分の演奏を録音する

本機を使って自分の演奏を録音できます。USBフラッシュメモリーが接続されているときはUSBフラッシュメモリーに録音されます。

また、外部入力端子や Bluetooth を使って曲を再生しながら録音を同時に行うと、再生中の曲に自分の演奏を重ねて録音できます。

■ 本機に録音する (USBフラッシュメモリーを接続していないとき)

1. モードセレクトノブで「RECORDER」を選びます。



録音する

本機への録音時間は約1分30秒です。

2. 「●」の下のボタン([F1])を押して録音を始めます。

録音中は録音経過時間(分:秒)が画面に表示されます。

3. 演奏します。

4. 演奏を終えたら、「□」の下のボタン([F1])を押して録音を終わります。

再生する

NOTE
曲が録音されていないときは表示されません。

2. 「▶」の下のボタン([F2])を押して再生を始めます。

再生中は再生経過時間(分:秒)が画面に表示されます。

3. 再生をやめるときは、「■」の下のボタン([F2])を押します。

その他の設定を変える

再生速度の倍速や録音ソースなど、その他の設定を変えられます。詳しくはリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。

注記

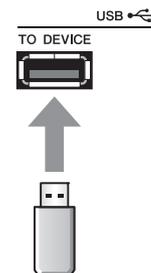
- 一度、本機に演奏を録音したあとで、もう一度演奏を録音すると、前回録音した演奏は消えてしまいます。
- 本機に録音した演奏は、電源を切ると消えてしまいます。保存したい場合は、演奏データをオーディオファイルとしてエクスポートしてください。詳しくはリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。(MENU/Job/Recorder/Export Audio)

■ USBフラッシュメモリーに録音する

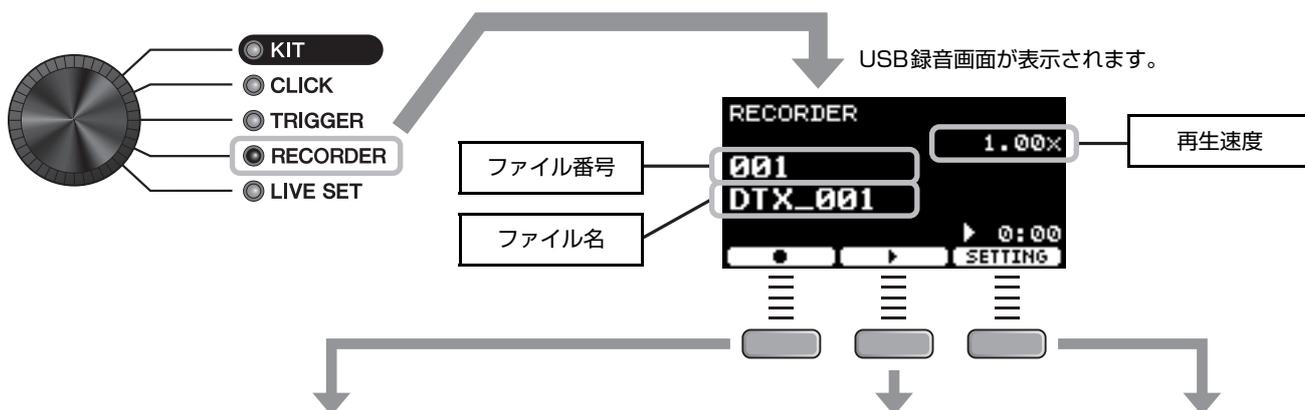
1. リアパネルの[USB TO DEVICE]端子にUSBフラッシュメモリーを差し込みます。

USBフラッシュメモリーを差し込むと

- ・一度の録音で最大90分まで録音できます。
- ・録音するたびに新しいファイルができます。
- ・再生と録音を同時に行くと、再生中の曲に自分の演奏を重ねて録音できます。



2. モードセレクトノブで「RECORDER」を選びます。



録音する

3. 「●」の下のボタン([F1])を押して録音を始めます。

録音中は録音経過時間が画面に表示されません。



4. 演奏します。

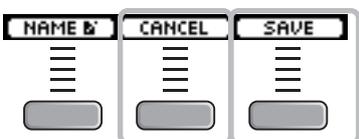
5. 演奏を終えたら、「□」の下のボタン([F1])を押して録音を終わります。

レコーダーセーブ画面が表示されます。



6. 「SAVE」の下のボタン([F3])を押して、ファイルを保存します。

ファイルの保存を取りやめるときは「CANCEL」の下のボタン([F2])を押します。



NOTE

ファイル名を変更したい場合には「NAME」の下のボタン([F1])を押して、名前を入力します。(40ページ)

再生する

NOTE

曲が録音されていないときは表示されません。

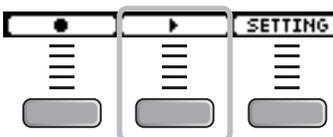
3. [-][+]で再生したい曲を選びます。



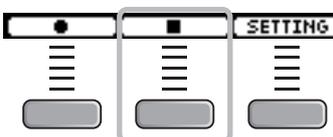
NOTE

認識されるのは1,000曲までです。

4. 「▶」の下のボタン([F2])を押して再生を始めます。



5. 再生を止めるときは、「■」の下のボタン([F2])を押します。



その他の設定を変える

再生速度の倍速や録音ソースなど、その他の設定を変えられます。詳しくはリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。

■ 伴奏と自分の演奏を重ねて録音する

伴奏(バックグ)の曲をUSBフラッシュメモリーに取り込み、その曲を再生しながら演奏すると、自分の演奏と伴奏を合わせて1つのファイルとして録音できます。

● バックグの曲(オーディオファイル)を準備する

• コンピューターから取り込む

コンピューターからUSBフラッシュメモリーのルートディレクトリーにオーディオファイル(.WAV)を保存します。

オーディオファイルの条件：16ビット、44.1kHz、ステレオ、wav形式

NOTE

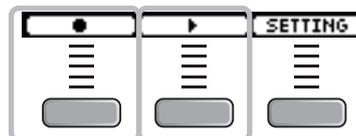
- 上記条件をすべて満たしたオーディオファイルでも、再生できない場合があります。
- オーディオファイルがフォルダに入っていると、本機では認識されません。

● バックグの曲を聞きながら自分の演奏を録音する

1. [-][+]で、準備したバックグの曲を選びます。

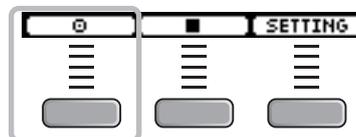


2. 「●」の下のボタン([F1])と「▶」の下のボタン([F2])を押して、録音と再生を始めます。



3. 演奏します。

4. 演奏を終えたら、「■」の下のボタン([F1])を押して録音を終わります。



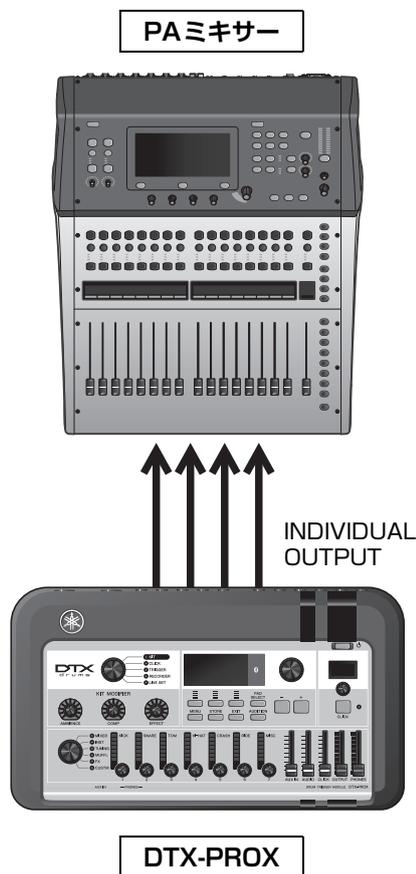
NOTE

「■」の下のボタン([F2])を押すと、バックグの再生は止まりますが、録音は続きます。

PAに接続する

ライブ演奏時に本機の音声をPAミキサーに送り出したりするときは、下の例のように接続すると便利です。

接続例



■ [INDIVIDUAL OUTPUT]端子(1/2 ~ 7/8)

スネア、キックなどの各楽器音を個別に出力できます。

- ステレオ標準フォーンジャック (UNBALANCED)
- 最大8つのモノラル出力 (ステレオ4系統)
- 個別に好みの音 (パッドの音、クリックなど) を割り当て可能

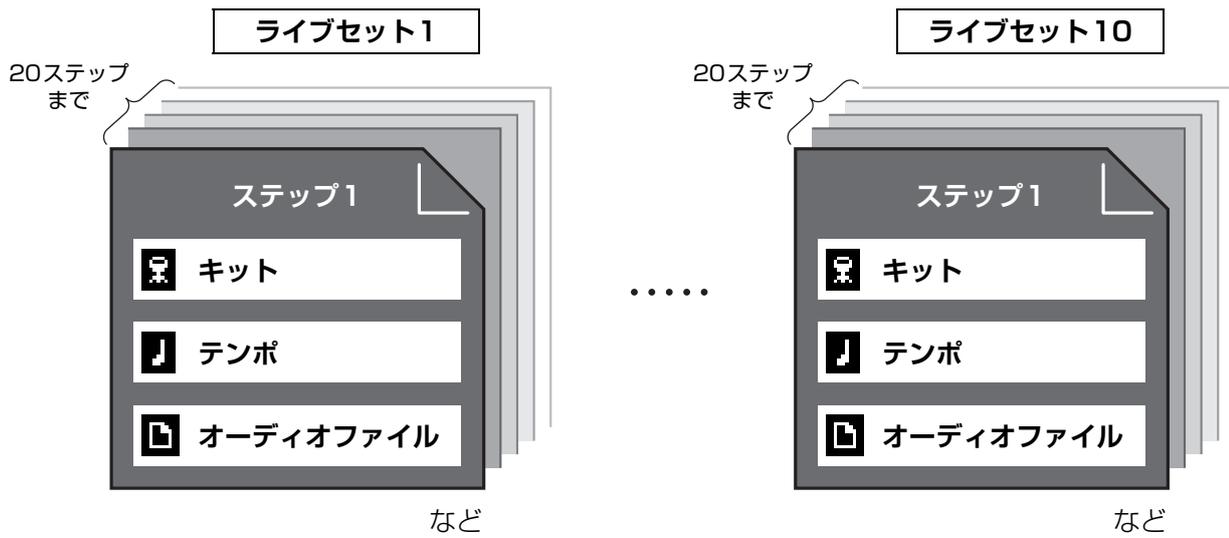
端子を2つに分けてモノラルで使いたい場合にはY字ケーブル(市販)をお使いください。

出力先の割り当てを変えることができます。詳しくはリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。

ライブセットを活用する

ライブセットとは、キット、テンポ、オーディオファイルなどの組み合わせを順番に並べたものです。たとえば、演奏順にキットを並べたライブセットを作ってライブ演奏で利用したり、難易度順にオーディオファイルを並べたライブセットを作ってリズム練習で使ったりなど、さまざまに活用できます。

本機では、自分で作ったライブセットを10種類まで保存しておき、いつでも自由に選んで演奏に使えます。



■ ライブセットを作る

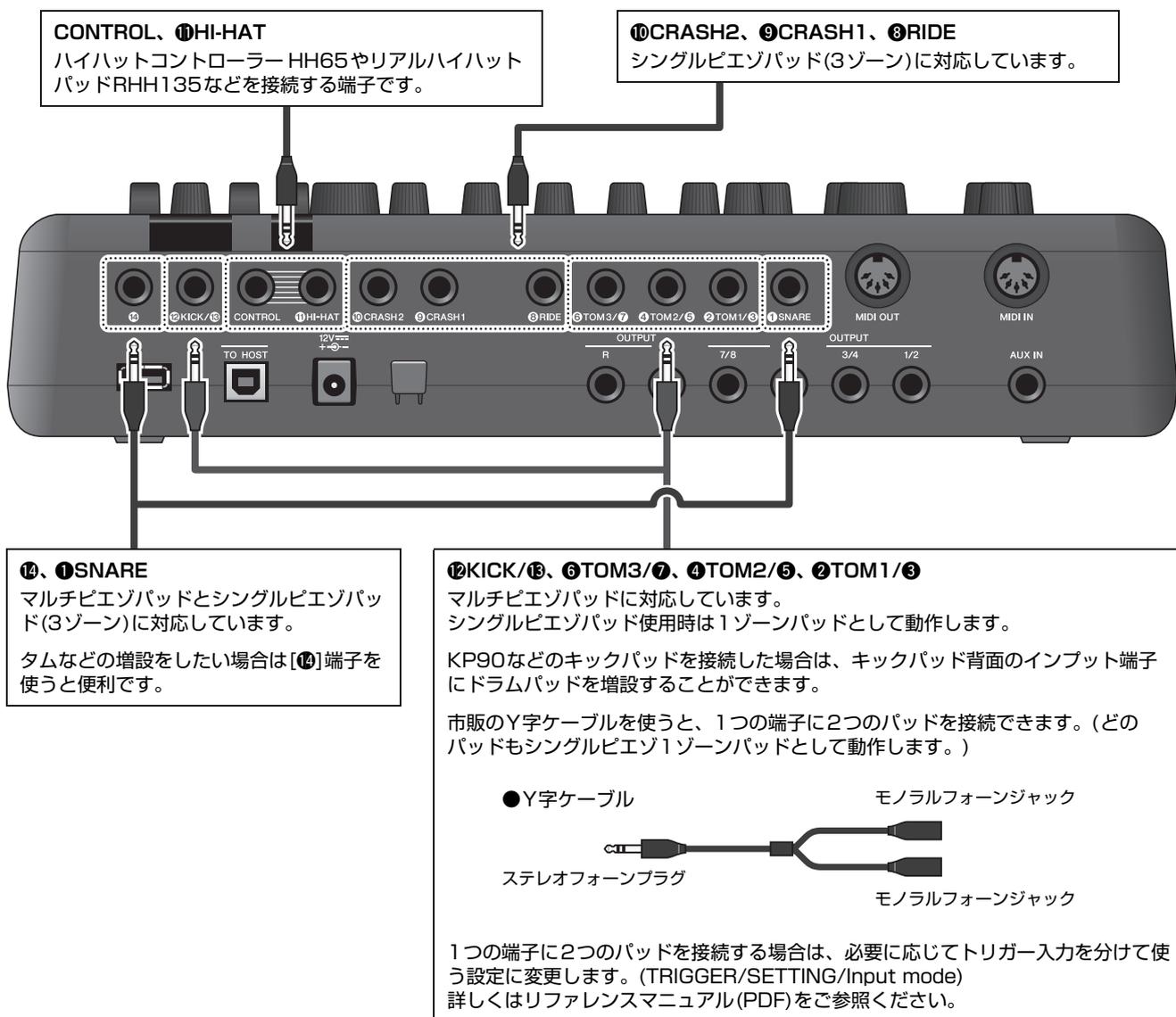
ステップごとの組み合わせを順番に登録し、ライブセットを作ります。詳しくはリファレンスマニュアル (PDF) をご参照ください。

別売品や外部機器を接続する

本機に別売品や外部機器を接続すると、本機の機能を拡張できます。

■ トリガー入力端子について

トリガー入力端子とは、パッドを接続するための端子です。本機リアパネルに装備されている[①SNARE]端子～[⑭]端子には、最大14のパッドを接続できます。接続できるパッドの種類については、「パッドの叩きかた」(27ページ)をご覧ください。



トリガー入力の音色割り当てについては、データリスト(PDF)をご参照ください。

各トリガー入力端子に取り付け可能な別売品については、下記ウェブサイトでパッドモジュール対応表をご確認ください。

ヤマハダウンロード <https://download.yamaha.com/jp/>

※ウェブサイトの URL は予告無く変更することがあります。

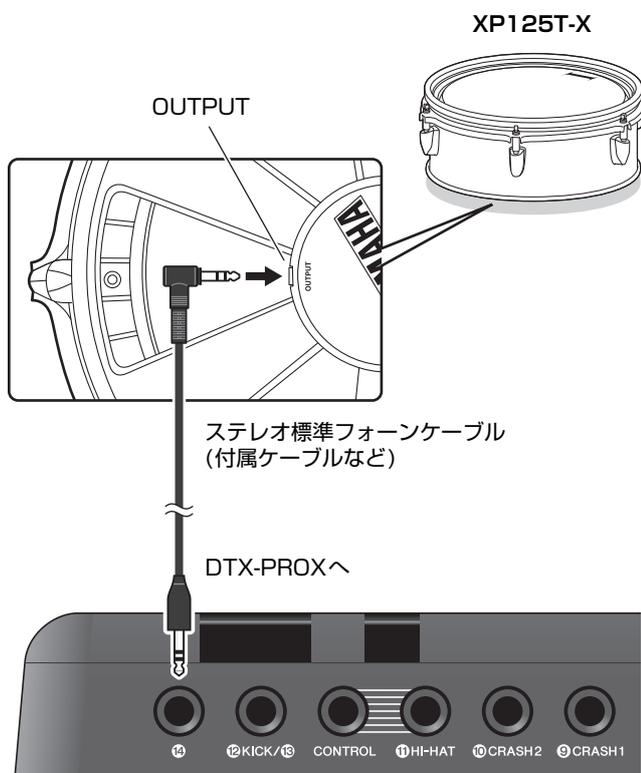
■ 別売品を取り付ける

別売品を本機に接続して楽しむ方法を紹介します。

ここではXP125T-XとPCY95ATの接続例を紹介します。これ以外の別売品を取り付ける場合は、パッドモジュール対応表(PDF)をご参照ください。<https://jp.yamaha.com/>

● [14] 端子にタムを増設する

1. 本機の電源を切ります。
2. [14] 端子にXP125T-Xを接続します。

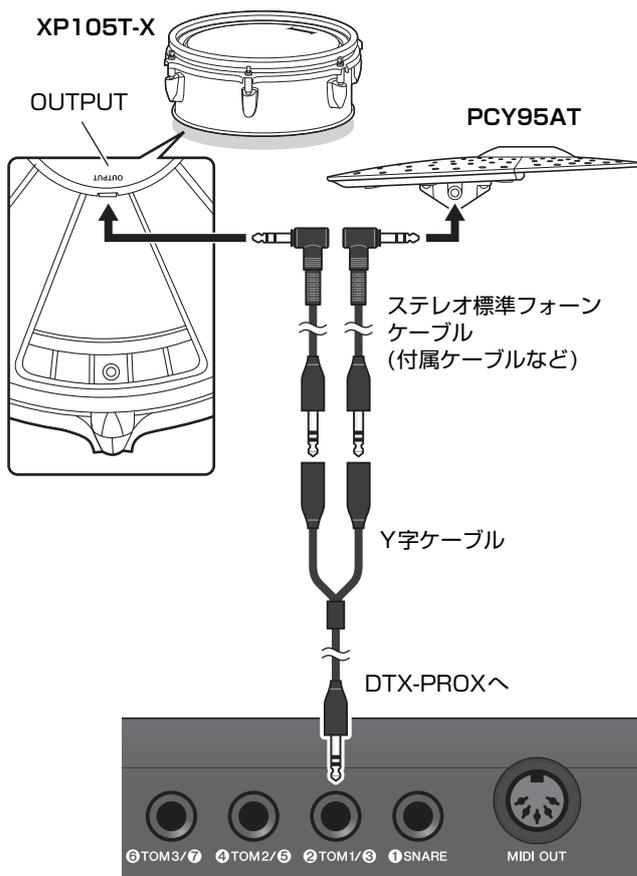


3. 本機の電源を入れます。
4. パッドタイプをXP125T-Xに合わせます。
(TRIGGER/SETTING/Pad Type)

● [2TOM1/3] 端子にシンバルを増設する

[2TOM1/3] 端子にY字ケーブル(市販)を取り付けて、シンバルを増設できます。その場合、2つのパッドは1ゾーンパッドとして機能します。

1. 本機の電源を切ります。
2. [2TOM1/3] 端子にY字ケーブル(市販)とパッドを接続します。



3. 本機の電源を入れます。
4. パッドタイプをPCY95ATに合わせます。
トリガー入力を分けて使うために、インプットモードを「separate」にします。
(TRIGGER/SETTING/input mode)

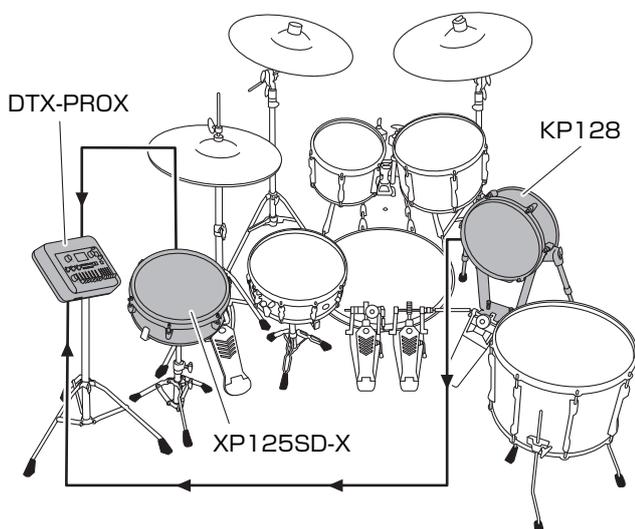
■ アコースティックドラムに電子ドラムを組み込む

アコースティックドラムセットに電子ドラムを組み込む方法をご紹介します。

● アコースティックドラムセットにパッド(XP125SD-Xなど)を組み込む

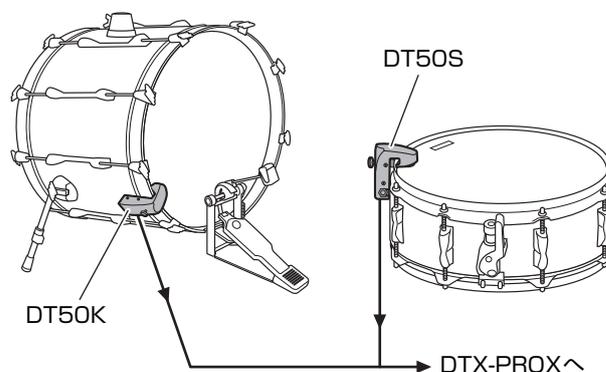
アコースティックドラムセットにパッド(XP125SD-Xなど)を組み込むことができます。また、接続したパッドに応じて、パッドタイプを設定してください。(TRIGGER/SETTING/Pad Type)

● セッティング例



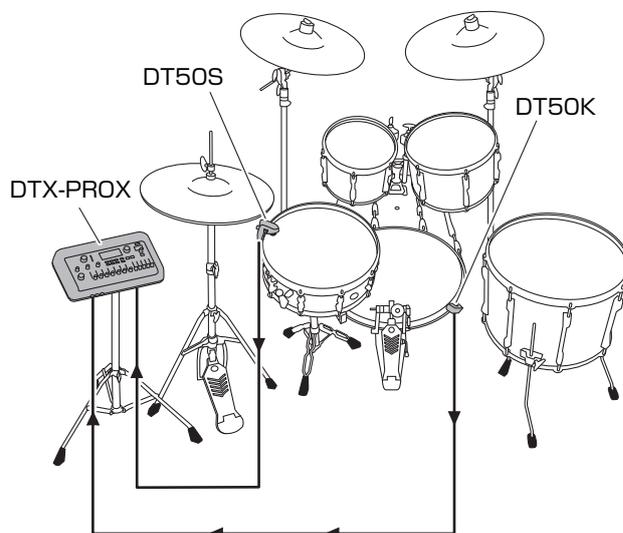
● アコースティックドラムを叩いてDTX-PROXを鳴らす

バスドラムやスネアドラムにドラムトリガーDT50KやDT50Sを取り付けて、本機の[12]KICK/[13]端子や[1]SNARE]端子に接続すると、ドラムを叩いたときのトリガー信号を本機に伝達できます。また、接続したパッドに応じて、パッドタイプを設定してください。(TRIGGER/SETTING/Pad Type)



取り付ける位置などについて詳しくは、DT50S/DT50K取扱説明書をご参照ください。

● セッティング例 (スネアドラムとバスドラムに取り付けた場合)



■ コンピューターを接続する

本機にコンピューターを接続し、付属のCubase AIなどのDAW(Digital Audio Workstation)ソフトウェアを使うと、自分の演奏の録音、編集、ミキシングなど一連の作業ができます。

コンピューターの接続方法については、リファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。DAWソフトウェアの使いかたについてはお持ちのDAWソフトウェアの取扱説明書をご参照ください。

[USB TO HOST] 端子ご使用時の注意

[USB TO HOST] 端子でコンピューターと接続するときは、コンピューターや本機の停止(ハングアップ)によるデータの損失を防ぐため、以下のことを行ってください。

注記

- USBケーブルはABタイプで、3メートル未満のものをご使用ください。USB3.0ケーブルは、使用できません。
- 本機の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しをする前に、以下のことを行ってください。
 - すべてのアプリケーションを終了させてください。
 - 本機からデータが送信されていないか確認してください。
- 本機の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けて行ってください。

コンピューターや本機が停止したときは、アプリケーションやコンピューターを再起動するか、本機の電源を入れ直してください。

メッセージ一覧

メッセージ	説明
Are you sure?	各操作を実行したときの、確認を求める表示です。
Auto power off disabled.	[MENU] ボタンを押しながら電源を入れることによって、オートパワーオフ機能が解除されたときに表示されます。
Backup error.	本機へのデータ書き込みに失敗した場合には表示されます。 電源オフ時にデータを正しく保存できなかった場合、次回の電源オン時に表示されます。 エラーメッセージが表示されたあと、自動的にファクトリーリセットが実行されます。
Bluetooth pairing....	Bluetooth のペアリング待機状態です。(24ページ)
Canceled.	キャンセル処理が完了したときに表示されます。
Can't process.	処理に失敗しました。
Completed.	キットのストア、ファイルのロード/セーブ、ジョブなどの実行が完了したときに表示されます。
Connecting USB device...	USB 機器を接続中です。
Excessive demand for USB power.	USB 機器の消費電力が規定値を超えています。
Factory Reset initializing...	起動時にファクトリーリセットを行った場合に表示されます。
File already exists.	同じ名前のファイルがすでに存在しています。
File not found.	選択したタイプのファイルがありません。
Illegal file.	ロードのとき、目的のファイルが本機では扱えない場合や本機がサポートしていないファイルを扱おうとした場合に表示されます。
Incompatible USB device.	本機では使用できないUSB機器が、[USB TO DEVICE] 端子に接続されると表示されます。
Invalid USB device.	USB 機器が不良です。フォーマットを実行してやりなおしてください。
Keybank full.	ウェブフォームのキーバンク数の合計が最大数を超える場合に表示されます。
No data.	レコーダー、ウェブに関するジョブ実行時に、対象となるデータが存在しない場合に表示されます。
No response from USB device.	USB 機器から応答がありません。
Now importing...	ウェブのインポート中に表示されます。
Now loading...	ファイルロード中に表示されます。
Now processing...	キットのストアやジョブの実行中に表示されます。ファイルのロード/セーブ実行を中止したときの、後処理実行中に表示されます。
Now saving ...	ファイルセーブ中に表示されます。
Overwrite?	ファイルをセーブする際、USB 機器内に同名のファイルがある場合に表示されます。 以前ストアしたことのあるユーザーキットに再度ストアを実行しようとした場合に表示されます。

メッセージ一覧

メッセージ	説明
Please stop recorder.	レコーダーで再生または録音中に、レコーダーを終了する操作をしたときに表示されます。レコーダーを停止してから操作してください。
Recording time limit exceeded.	レコーダーで録音制限時間に到達した場合に表示されます。内蔵メモリ使用時は約1分30秒、USBフラッシュメモリ使用時は90分です。また録音中にUSBフラッシュメモリが一杯になった場合にも表示されます。
Read only file.	読み取り専用のファイルを選択しファイル操作を実行すると表示されます。
Sample is too long.	サンプルが長すぎて読み込めません。
Sample is too short.	サンプルが短すぎて読み込めません。
Song is too long.	ソングファイルが大きすぎて読み込めません。
USB connection terminated.	USB機器に異常な電流が流れたので接続を遮断しました。接続しているUSB機器を外した上で[OK]ボタンを押してください。
USB device's transfer speed too slow.	USB機器への転送スピードが間に合わなかった時に表示されます。 なお、当社にて動作確認を実施しました各種デバイスについては、ヤマハサイト『USB機器動作確認済みリスト』をご覧ください。
USB device full.	USB機器の容量が一杯でファイルがセーブできないときに表示されます。新しいUSB機器を用意するか、不要なファイルを消去してから操作をやりなおしてください。
USB device not ready.	USB機器が本機に正しくセットされていない場合に表示されます。
USB device read/write error.	USB機器へのリード/ライト中にエラーが発生しました。
USB device write protected.	USB機器が書き込み禁止状態になっている場合に表示されます。
USB transmission error.	USB機器との通信中にエラーが発生しました。
User Voice full.	ユーザーボイス数の合計が最大数を超える場合に表示されます。
Waveform full.	ウェーブフォーム数の合計が最大数を超える場合に表示されます。
Wave memory error.	ウェーブ用のメモリへのデータ書き込みに失敗した場合に表示されます。 Waveデータを正しく保存できなかった場合、次回の電源オン時に表示されます。エラーメッセージが表示されたあと、自動的に修復処理が実行されます。
Wave memory full.	ウェーブ用のメモリが一杯で、インポートやジョブ、ロードなどが実行できない場合に表示されます。

困ったときは

リファレンスマニュアル(PDF)もあわせてご覧ください。

リファレンスマニュアルのダウンロードについては、7ページをご覧ください。

現象	考えられる原因	対策	参照ページ	
音が出ない バランスが悪い	音が出ない	正しく接続されていない	<ul style="list-style-type: none"> ヘッドホンやアンプ/スピーカーなどの外部機器が正しく接続されているか確認してください。 使用しているケーブルが不良ではないか確認してください。 	12ページ 13ページ 16ページ
	ボリュームやレベルが適切ではない ヘッドホンの音量が下がっている メトロノームの音量が下がっている	<ul style="list-style-type: none"> 本機に接続しているアンプ/スピーカー トップパネルのスライダー ([OUTPUT]、[PHONES]) LEDロータリーフェーダー メトロノーム(クリック)の音量[CLICK]スライダー (トリガー出力のレベル調節ツマミのあるパッドの場合)出力レベル 	10ページ 13ページ	
音量バランスが悪い	それぞれのパッドから鳴る音の音量バランスが悪い	LEDロータリーフェーダーが適切な音量になっているか確認してください。	35ページ	
	外部オーディオ機器と本機の音量バランスが悪い	<ul style="list-style-type: none"> 外部オーディオ機器のボリュームが適切かどうか確認してください。 [AUDIO]スライダーで調節してください。 	10ページ 13ページ 24ページ	
音質バランスが悪い	EQのバランスが崩れている	<ul style="list-style-type: none"> ヘッドホンEQやマスターEQを調節します。 	16ページ 39ページ	
位置検出機能付きのパッドで音が正しく出ない		<ul style="list-style-type: none"> パッドタイプやトリガーの設定を確認してください。詳細についてはリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。 シンバルの向きが正しいか確認してください。シンバルの向きが正しくないと、シンバルの性能を十分引き出せないことがあります。 位置検出機能に対応した端子にパッドを接続する必要があります。 	27ページ 組立説明書	
ヘッドホンボリュームが足りない		<ul style="list-style-type: none"> MENU/Utility/Output Gainを調節してください。 ヘッドホンを1つだけ接続して使う。2つ同時だと出力が小さくなる場合があります。 	リファレンスマニュアル(PDF) 16ページ	

困ったときは

現象	考えられる原因	対策	参照ページ
演奏性関連 シンバル/ハイハットの音が小さい 音は出るが感度が低い(音が小さい)	シンバルの向きが正しくない ハイハットシャフトがゆるんでいる フェルトが取り付けられている パッドタイプやトリガーの設定が違う LEDロータリーフェーダーが最小になっている パッドのレベル調整が適切ではない	<ul style="list-style-type: none"> シンバルの向きが正しいか確認してください。シンバルの向きが正しくないと、シンバルの性能を十分引き出せないことがあります。 使用しているうちにハイハットシャフトがゆるみ、ハイハットパッドが回転することがあります。性能が十分に出なくなることがありますので、ハイハットシャフトを定期的になじ込み、ハイハットパッドの位置を調整し直してください。 シンバルの下にフェルトが取り付けられていると音が小さくなる場合があります。 パッドタイプやトリガーの設定を確認してください。詳細についてはリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。 パッドにレベル調節つまみなどがある場合は、(上げる方向で)調整してください。 鳴らない音色(インスト)のLEDロータリーフェーダーが最小になっていませんか？ 	27ページ 組立説明書 35ページ
二度鳴り(ダブルトリガー)を起こす 叩いたパッド以外のパッドが発音してしまう(クロストークを起こす)		リファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。	リファレンスマニュアル(PDF)
チョーク奏法、ミュート奏法ができない		シンバルの向きが正しいか確認してください。シンバルの向きが正しくないと、シンバルの性能を十分引き出せないことがあります。	27ページ 組立説明書
ハイハットのフットクローズ音が鳴らない、鳴りにくい	ハイハットシャフトがゆるんでいる フェルトが取り付けられている LEDロータリーフェーダーが最小になっている パッドのレベル調整が適切ではない	<ul style="list-style-type: none"> ハイハットペダルをしっかりと踏み込んでください。 ハイハットパッドやハイハットコントロールの[CONTROL]端子から本機リアパネルの[CONTROL]端子に正しく接続されているか確認してください。 シンバルの下にフェルトが取り付けられていると音が小さくなる場合があります。 鳴らない音色(インスト)のLEDロータリーフェーダーが最小になっていませんか？ 	組立説明書 35ページ
位置検出機能付きのパッドで音が正しく出ない		<ul style="list-style-type: none"> パッドタイプやトリガーの設定を確認してください。詳細についてはリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。 シンバルの向きが正しいか確認してください。シンバルの向きが正しくないと、シンバルの性能を十分引き出せないことがあります。 位置検出機能に対応した端子にパッドを接続する必要があります。 	27ページ 組立説明書

現象	考えられる原因	対策	参照ページ
設定	本機の設定が保存されない	<p>本機の設定は、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチで電源を切るときに自動的に保存されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 電源アダプターを抜いて電源を切った場合は、本機の設定が保存されません。 キット、クリック、トリガーの設定は、セーブの操作をしないと保存されません。 	18ページ 15ページ 40ページ
	データを外部USBフラッシュメモリーに保存(セーブ)できない	<p>USB1.1のUSBフラッシュメモリーは使えません。</p> <ul style="list-style-type: none"> USBフラッシュメモリーを本機でフォーマットしてください。 USBフラッシュメモリーにライトプロテクトがかかっているか確認してください。 USBフラッシュメモリーの空き容量は十分にありますか?空き容量の確認方法はリファレンスマニュアル(PDF)をご参照ください。 	リファレンスマニュアル(PDF)
	スマートデバイスと通信ができない	接続方法を確認してください。詳細については、スマートデバイス接続マニュアル(PDF)をご参照ください。	23ページ
	Bluetooth 対応のスマートデバイスと Bluetooth で接続できない。	<ul style="list-style-type: none"> スマートデバイスの Bluetooth 機能が有効か確認してください。Bluetooth でペアリングまたは接続するには、この楽器とスマートデバイス両方の Bluetooth 機能を有効にする必要があります。 Bluetooth 経由で接続するには、はじめに機器同士をペアリングする必要があります(24ページ)。 2.4GHz帯の電磁波を発するもの(電子レンジ、無線LAN機器など)が近くにある場合は、電磁波を発するものからこの楽器を離してください。 	24ページ
	途中で電源が切れてしまう	自動電源オフ(オートパワーオフ)が有効になっていませんか?	19ページ
	本機がすべてのスイッチやトリガー入力を受け付けなくなった 本機の設定を購入時の状態に戻したい	ファクトリーセットを行ってください。購入時の状態に戻ります。	20ページ

仕様

音源部	音源方式	AWM2	
	最大同時発音数	256音	
	エフェクト	<p>インスト毎 EQ / Comp / Transient / Insertion(*)</p> <p>キット毎 Ambience / FX1 / FX2 Master Comp / Master Effect</p> <p>全体 Master EQ / Phones EQ</p> <p>(*) Insertionは特定インストのみ</p>	
キット	キット数	プリセット：40キット以上 ユーザー：200キット	
	音色数	ドラム/パーカッション：400音色以上	
クリック	ユーザークリック数	30個	
	テンポ	30～300/分、タップテンポ機能	
	ビート	1/4～16/4、1/8～16/8、1/16～16/16	
	タイミング	アクセント、4分音符、8分音符、16分音符、8分3連符	
	その他	独立ボリューム調整、波形インポート、タイマー	
トレーニング	トレーニング数	10種類	
	トレーニングソング数	プリセット：37曲 ユーザー：1曲	
ウェーブ	読み込み可能ウェーブ数	1000個	
	読み込み可能 最大サンプル時間	50分40秒(44.1kHz、16bit、モノラル) 25分20秒(44.1kHz、16bit、ステレオ)	
	サンプル形式	WAV	
レコーダー	録音時間	最大90秒	
	内蔵メモリー USBフラッシュメモリー	1ファイルあたり最大90分	
	フォーマット	録音/再生 WAV(44.1kHz、16bit、ステレオ)	
ディスプレイ		フルドットLCD (128X64ドット)	
接続端子	電源	DC IN (+12V)	
	ヘッドホン	ヘッドホン(ステレオ標準フォーンジャック×1、ステレオミニジャック×1)	
	外部入力	外部入力(ステレオミニジャック×1、ステレオ標準フォーンジャック×1)	
	外部出力	OUTPUT L/MONO、R (標準フォーンジャック各1) INDIVIDUAL OUTPUT 1/2、3/4、5/6、7/8 (ステレオ標準フォーンジャック各1)	
	USB	USB TO DEVICE USB TO HOST	
	MIDI	MIDI OUT×1、MIDI IN×1	
	トリガー入力	ジャック数 10 (ステレオ標準フォーンジャック、HI-HAT CONTROLは除く)	
		最大パッド接続可能数 (Y字ケーブル接続時)	14
	Bluetooth 接続	対応プロファイル	A2DP
		対応コーデック	SBC
Bluetoothバージョン		4.1	
無線出力		Bluetooth class 2	
最大通信距離		約10 m	
無線周波数(動作周波数)		2402～2480 MHz	
最大出力電力		+4 dBm	
変調方式		GFSK、 $\pi/4$ DQPSK、8DPSK	
消費電力	13 W		
寸法	342(W)×196(D)×66(H) mm ※突起部含まず		
質量	2.0 kg		
付属品	電源アダプター (PA-150B、またはヤマハ推奨の同等品(出力：DC 12 V、1.5 A))、 保証書、取扱説明書(本書)、モジュールホルダー、 モジュールホルダー止めネジ：4本、Cubase AI ダウンロード インフォメーション		

本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

索引

Symbols

[-][+]	11
[-][+]ノブ	11
[-]ボタン	11
[+]ボタン	11

数字

1ゾーンパッド	27
3ゾーンパッド	27

A

[AMBIENCE] (アンビエンス)ノブ	10, 33
[AUDIO](オーディオ)スライダー	11
[AUDITION] (オーディション)ボタン	11
[AUX IN](外部入力)スライダー	11
[AUX IN](外部入力)端子	12, 13

B

Bluetooth	5, 11, 24
-----------	-----------

C

[CLICK](クリック)スライダー	11
[CLICK](クリック)ボタン	11
CLICK(クリック)モード	10
[COMP](コンプ)ノブ	10, 33
CUSTOM(カスタム)	10

D

DAW(Digital Audio Workstation) ソフトウェア	54
DC IN端子	13

E

[EFFECT](エフェクト)ノブ	10, 33
[EXIT](エグジット)ボタン	11

F

FX(エフェクト)	10
-----------	----

I

[INDIVIDUAL OUTPUT]端子	13, 49
INST(インスト)	10

K

KIT MODIFIER (キットモディファイアー)ノブ	10
KIT(キット)モード	10

L

LEDロータリーフェーダー	10
LIVE SET(ライブセット)モード	10

M

[MENU](メニュー)ボタン	11
[MIDI IN]端子	13
[MIDI OUT]端子	13
MIXER(ミキサー)	10
MUFFL(マフリング)	10

O

OUTPUT [R], [L/MONO](外部出力)端子	13
[OUTPUT](出力)スライダー	11

P

PA	49
[PAD SELECT] (パッドセレクト)ボタン	11
[PHONES](ヘッドホン)スライダー	11
[PHONES](ヘッドホン)端子	12

R

RECORDER(レコーダー)モード	10
--------------------	----

S

[STORE](ストア)ボタン	11
-----------------	----

T

[TEMPO](テンポ)ノブ	11
TRIGGER(トリガー)モード	10
TUNING(チューニング)	10

U

[USB TO DEVICE]端子	13, 21
[USB TO HOST]端子	13, 54

Y

Y字ケーブル	51
--------	----

ア

アコースティックドラム	53
アンビエンス	26
位置検出機能	27, 28, 30
インスト	26, 34
ウェーブ	37
液晶ディスプレイ(表示画面)	10
エッジショット	29, 30
エフェクト	26, 33, 34
エフェクト設定画面	10
オーディオファイル(.WAV)	37
オートパワーオフ(自動電源オフ)	19
オープン/クローズ	29
オープンリムショット	28

カ

カスタム設定	34
キット	26, 32
キット画面	10, 32
クリック	42, 43
クリックテンポ表示	11
クローズドリムショット	28
クロススティック	28
クロススティック設定	10
コードフック	13
コンピューター	54
コンプ	26

サ

シングルピエゾ	27
シングルピエゾパッド	51
シンバル	30
シンバルサイズ	34
シンバルのサステイン	34
[Ⓞ](スタンバイ/オン)スイッチ	11
ステップ	50
スネア	28
スマートデバイス	23
ゾーン	27

タ

タップテンポ	43
タム	28
チューニング	34
チョーク奏法	30
電源アダプター	15
テンポ	42
トップパネル	10
ドラムセット	26, 34
トリガー設定	45
トリガーセットアップウィザード	17
トリガー入力端子	13, 51

ハ

ハイハット	29
ハイハットクラッチ	34
ハイハットスブラッシュ	29
バックング	48
パッド	27
ファクトリーリセット	20
ファンクション1~3ボタン ([F1]、[F2]、[F3])	10
フェーダーセレクトノブ	10
フットクローズ	29
フロントパネル	12
ペアリング	24
ヘッドショット	28
ヘッドホン	16
別売品	52
ベルショット	30
ボウショット	29, 30

マ

マフリング	34
マルチピエゾ	27
マルチピエゾパッド	51
ミキサー	34, 35
ミュート	34
ミュート奏法	31
メトロノーム	42, 43
モードセレクトノブ	10
モノラルパッド	27

ラ

ライブセット	50
リアパネル	13

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

●保証書

本製品には保証書が付いています。
「販売店印・お買い上げ日」が記入されている場合は、記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。記入されていない場合は、購入を証明する書類(領収書、納品書など)とあわせて、大切に保管してください。

●保証期間

保証書をご覧ください。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

有寿命部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパッドなど

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

●修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへご連絡ください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

●ナビダイヤル

(全国共通番号)



0570-012-808

※固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-4830 へおかけください。

●受付：月曜日～金曜日 10:00～17:00 (土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

●FAX：東日本(北海道/東北/関東/甲信越/東海) 03-5762-2125
西日本(北陸/近畿/中国/四国/九州/沖縄) 06-6649-9340

◆修理品お持込み窓口

●受付：月曜日～金曜日 10:00～17:00 (土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪市浪速区難波中1丁目13-17 ナンバ辻本ビル7F FAX 06-6649-9340

*名称、住所、電話番号、営業時間などは変更になる場合があります。

■ユーザーサポートサービスのご案内

ユーザー登録のお願い

弊社では、ユーザーの方々をサポートし、関連情報をご提供するために、本製品をご購入いただいたお客様にユーザー登録をお願いしております。

ユーザー登録手続きは、下記ウェブサイトよりお願いします。

ヤマハ電子ドラムサイト

<https://jp.yamaha.com/dtx/>

*ユーザー登録には、製品本体のシリアル番号(SER No.)が必要になります。

*ご登録いただいた「ご住所」、「お名前」、「メールアドレス」などを変更された場合は、上記ウェブサイトよりお手続きください。

本製品の機能や取り扱いについては、最寄りの特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター ギター・ドラムご相談窓口

● ナビダイヤル

(全国共通番号)



0570-056-808

※固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-533-5003へおかけください。

● 受付 : 月曜日～金曜日 10:00～17:00 (土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

● <https://jp.yamaha.com/support/>

付属DAWソフトウェアについては、Steinberg社のホームページをご覧ください。Steinberg社のホームページでは、製品に関するサポート情報や、最新のアップデートのダウンロード、FAQなどを下記URLにて公開しております。

<http://japan.steinberg.net/>

付属DAWソフトウェアの[ヘルプ(Help)]メニューからSteinberg社のホームページにアクセスできます。(ヘルプメニューには、付属DAWソフトウェアのPDFマニュアルや追加情報なども掲載されています。)

◆ウェブサイトのご案内

- ・ヤマハ 電子ドラムサイト <https://jp.yamaha.com/dtx/>
- ・ヤマハ サポート・お問い合わせ <https://jp.yamaha.com/support/>

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

*都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

